

愛知医科大学学報



愛知医科大学病院の上空を飛行するブルーインパルス

＝ 第169号 ＝

2023.1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

| | |
|-----------------------|----|
| 年頭ごあいさつ | 2 |
| 創立50周年記念事業募金のご協力をお願い | 7 |
| 愛知県から愛知県政150周年記念感謝状贈呈 | 10 |
| 秋の叙勲の榮譽 | 10 |
| 教授就任インタビュー | 21 |
| 令和5年度学年暦 | 25 |
| 令和5年度入学試験開始 | 26 |
| 教育・研究最前線 | 51 |
| Smile ～スマイル～ | 53 |



— 次の50年に向けて —

理事長・学長 祖父江 元

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、お元気で新しい年を迎えられていることと存じます。

新型コロナウイルス感染症には、昨年も大学・病院ともに全力で対応した毎日だったと思います。皆さまの努力のお陰で、なんとか乗り切ってこられたと思います。心より感謝申し上げます。第8波を迎え大変な状況になっておりますが、なんとか早く収束に向かうことを願っております。

さて、令和4年度は愛知医科大学創立50周年に当たり、昨年11月3日（木・祝）の創立50周年記念式典には、数多くの方々にご出席を賜り誠にありがとうございました。また、記念事業に対しても多くの方々から多大なご支援をいただいております。心より感謝申し上げます。先人のこれまでの努力に感謝し、本学の今後の発展に向けた流れを更に活性化していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。本稿では、本学創立50周年記念事業と今後に向けた現在進行中のシステム改革について紹介します。

1. 愛知医科大学創立50周年記念式典、記念事業について

令和4年11月3日の創立50周年記念式典には、コロナ禍にもかかわらず、各界のご来賓、本学関係者を始め460名の皆さまにご出席を賜り、大変な盛会裏に開催することができました。皆さまのご支援に改めて感謝申し上げます。（この内容は、学報の創立50周年記念特集号に掲載されておりますので、ご参照ください。）

50周年記念事業は、募金事業という意味を含んでおりますが、「教育・研究・診療の基盤整備事業」

として、10項目を挙げております。

第1は、岡崎市の愛知医科大学メディカルセンター（分院）の開院です。令和3年4月1日に開院したことは皆さまご存知のことと思います。医科大学分院ならではの質の高い医療を提供する地域の中核病院として、また、若い医師を育てる「教育病院」として拠点化させていく予定です。令和5年4月からの365日2次救急開始に向けて常勤医師の大幅な増員や総合診療能力向上のための教育を目的に専修医を配置していきたいと思っております。

第2は、名古屋市東区の愛知医科大学眼科クリニックMiRAIの設置です。開設38年目のメディカルクリニックは、初期の目的を達成し、抜本的な改変が望まれていました。株式会社メニコンとの産学連携寄附講座（近視進行抑制）と眼科日帰り手術ラボを中心に、時代が求める治療・開発・臨床研究の拠点として令和4年7月に開院し、順調に発展しております。

第3は、日本造血細胞移植データセンターの移転と連携大学院の開設です。これは全国の350施設の血液疾患患者データ12万例を集積するデータセンターを連携大学院として本学に令和4年1月に移転開設しており、国と学会の支援を受けて、順調に発展しております。本センターは、日本のまとめ役として、海外との共同研究も盛んに進めており、米国、欧州と並んで国際的な3局の一つを形成するものです。

第4～6は、医心館のセミナー室拡充、スターバックスの誘致、レストラン「オレンジ」の改修です。スターバックスの誘致は令和4年9月に完了し、盛況です。医心館の拡充、オレンジの改修は、令和5年度の完成を予定しています。

第7は、リハビリテーション医療の充実です。新教授の就任に伴い、講座化、セラピストの大幅増員、リハビリスペースの拡張、分院や地域病院との連携、急性期・回復期リハビリの活性化などを進めています。また、近い将来に向けて、新設のリハビリ学部設置構想も動き出しております。

第8は、がん医療の推進です。本院は、平成31年4月に「地域がん診療連携拠点病院」に指定され、令和元年10月に「がんセンター」が設置されました。また、令和4年4月に愛知県がんセンターとの連携協定を締結、現在は、がんゲノム医療やがん診療部門を統括する多職種連携サポート推進などを進めており、化学療法部門の体制づくりを推進しています。

第9は、看護学研究科博士課程設置構想です。博士課程(Ph.D.コース: Doctor of Philosophy及びDNPコース: Doctor of Nursing Practice)を設置し、高度な看護実践を行う診療看護師や専門看護師の指導者を養成します。日本の高度看護実践のトップランナーを目指します。

第10は、先進医療研究棟構想について、50周年を契機にスタートさせます。「世界を見据えた教育・研究活動の充実と発展」、「診療・研究・教育を担う卓越した人材の育成」、「地域医療・地域貢献の促進」などの五つの目標を掲げ、その実現に向けた先進医療研究棟構想プロジェクトを進めていきます。本学マスタープラン構想の実現に向けて検討を進めます。

2. 今後に向けたシステム改革

ここでは、現在進行中のシステム改革の一部をご紹介します。これらは今後に向けた重要な戦略であり、経営戦略推進本部を中心に進められているものです。今回は救急医療体制改革、働き方改革について若干の紹介をします。

第1は、救急医療体制改革です。これは3年前から第一次改革を進めているもので、現在は第二次改革に当たります。救急は本学にとって地域連携の中核を成すもので、断らない救急であることはもちろんのこと、患者、地域、医療スタッフのいずれにとっても満足度の高いものでなくてはならないと考えます。また、令和5年1月に愛知県から重症外傷センターの指定を受けたことから更なる充実が求めら

れます。第一次改革では、屋根瓦型のチーム医療、管理当直、当直室の整備、救急マニュアルの整備などを行い、特に時間外診療体制については、ある程度の成果が得られていると感じます。ただ、この第一次改革で残された課題も多く、特に一次・二次・三次救急の統合的な運用、救急救命科の常勤医の増員、各科専修医の救命救急科への3か月間の学内出向、経過観察病棟・救急管理棟の増設といったハード面や救急教育の推進など、より大きなシステム的な改変が必要と思います。建物の増設や人の増員を伴いますので、若干の時間が必要かと思いますが進めていきたいと考えています。既に多くの部分は動き出しており、この1年位が重要と思います。

第2は、医師の働き方改革で、これには二つの意味があります。一つは、国・厚生労働省の働き方改革として医師の時間外労働を960時間以内に短縮せよというもので、実態調査の提出が求められており、本学では医師全員の勤務時間実態調査を既に3回行っております。連続勤務時間制限、勤怠管理、宿日直許可、自己研鑽・研究の取り扱い、超過勤務の改善案なども併せて報告し、特例水準の認定を受けることになっております。これは、病院と協力しながら進めており、計画どおり提出できると思います。もう一つは、本学独自の働き方改革で、この機会に本学としてどのような働き方を今後進めていけば良いか、それを支えるシステムを作っていくというものです。多くの医科大学では、基本骨格は変形労働時間制を考えているようで、本学としてもこの変形労働時間制の形を作った上で、独自の改変を進めていくことになると思います。この中には、シフト制導入、兼業・副業管理、手当の見直し、勤怠管理システム導入など多くのポイントが含まれています。国の働き方改革の方向と連動しながらこの1年位で形を作っていきたいと思っております。

色々なシステム改革・改変を進める時代に入ってきていると思います。大学のあり方が大きく変化してきていると感じます。皆さま方には是非ご理解いただき、引き続きご支援を賜れば幸いに存じます。本年も何卒よろしく申し上げます。



— 新しい時代を見据えた 医学教育の推進 —

医学部長 笠井 謙 次

謹んで新春をお祝い申し上げます。

日頃、医学部・医学研究科の運営にご理解とご尽力を賜り、誠に有難うございます。昨年も、新型コロナウイルス感染症の猛威に曝され、皆さま夫々の現場では大変な負担を強いられてきたものと思います。まずは、くれぐれもご自愛いただくとともに、今一度の感染症対策にご協力を賜りたいと存じます。

今回は誌面をお借りして、令和4年の本学医学教育の振り返りと今後についてご紹介致します。

コロナ禍が始まって以来、医学部ではやむなく分散登校とZoomによるライブ配信を併用したハイブリッド講義を行ってきました。この過程で強化したMoodle/AIDLE-KなどのICT活用は、今後のより効果的な教育手法の鍵になると考えます。しかし、学生が一同に集い共に学ぶ対面講義には、教員－学生間あるいは学生相互の交流を可能にするなど、知識伝達を目的としたZoom講義では得難い価値があるものと改めて認識させられました。そこで、令和4年4月からはコロナ感染状況を見つつ、低学年次から順次全員登校による通常の対面講義に復帰しております。一方、学事遂行を優先させるため、学内・県内感染者数の動向に応じて課外活動を制限することがあり、第7波と重なった第74回西医体（夏季大会）は、残念ながら中止されました。しかし、50回目の開学記念日を控えた令和4年10月29日（土）及び30日（日）に本学では3年ぶりに医大祭（第47回）を開催できました。運営を担った1～3学年次生にとって初めて経験する医大祭でしたが、感染症対策の下、これまでの伝統に新しい視点を取り入れたものとなりました。

現在、厚生労働省では2040年を展望した医療提供

体制構築に向けて、所謂「三位一体の改革」が進められています。「医師の働き方改革」は、待ったなしの状況ですが、医学教育には、特に「実効性のある医師偏在対策」や「地域医療構想の実現」の観点から大きな変革が起きています。例えば、地域枠など臨時特別枠や恒久定員の見直しなどの入試制度改革が議論されており、卒前教育では今後地域に多疾患を併せ持つ高齢者が増加することを踏まえ、総合的視点を持つ医師の育成が求められています。

そこで、令和5年度には先般改訂された医学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえた本学カリキュラムの検証や、第118回（令和6年実施）から新しい出題基準が適用される医師国家試験への対応が必要です。更には、令和8年の上半期に予定される医学教育分野別認証評価受審2巡目への準備も開始すべきでしょう。臨床実習前CBT・OSCE公的化元年の令和5年度には、斯様な本学医学教育のアップデートが必要となります。

令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行されます。今後とも社会動向を踏まえつつ、医療機関を擁し医療人を育成する場として、適切な感染症対策を講じるとともに、新しい時代を見据え、本学の在り様に相応しい医学教育を推進したいと考えています。

学生・教職員の皆さまの益々のご協力を宜しくお願い致します。



—更に魅力ある看護学部・ 看護学研究科へと歩みを進めたい—

看護学部長 坂本 真理子

令和5年の年頭に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

皆さまには、日頃から看護学部・看護学研究科の教育・研究活動にご理解ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。既に4年目に入りましたコロナ禍の下、今もなお過酷な状況でご尽力されている現場の保健医療福祉分野の多くの皆さまには、心から敬意を表します。

令和4年は、繰り返される新型コロナウイルス感染症拡大のヤマ場（波）に翻弄されながらも、可能な限り日常に戻ろうと努力を重ねた1年であったと思います。看護学部では、4月からオンライン授業を併用しながらも、対面授業の割合を増やしてきました。最も深刻な影響を受けていた臨地実習でも、本院を始めとする実習機関と話し合いを重ね、十分な感染対策を講じた上で、許される限りの実習体験を積ませていただいたと思います。しかし、感染拡大の波が生じるたびに危機感を持つ日々であったことに変わりはありませんでした。

しかし、明るいお知らせもございます。まず、令和3年度看護師国家試験及び保健師国家試験では、現役学生の全員合格という嬉しい結果が得られました。3月に卒業した学生たちは、特に臨地実習での影響を大きく受けた学年ではありますが、厳しい状況下でも一人ひとりの学生が地道に努力した結果でもありました。4月からは新しいカリキュラムがスタートしております。新しいカリキュラムは本院・分院や医学部との連携、学外の臨地実習機関との協働関係、長久手市や尾張旭市など大学が立地する地域との密接な連携等、本学部の強みをフルに活かし、地域に密着した看護学教育を展開するものになっております。また、去年は令和5年度に受審する看護学教育評価に向けて、教職員

一丸となって具体的な準備を進めた年でもありました。日頃の教育活動を見直す大変な取り組みですが、質の高い教育を提供する仕組みを検討し、改善していく取り組みに繋がると考えています。

看護学部と本院看護部との協働による看護連携型ユニフィケーション推進事業の試行も2年目となりました。看護部職員が、学部教育に積極的に関わってくださることで、より実践的で臨場感のある授業が可能となっています。また、卒業前研修として位置付けた研修では、実習機会が減少していた学生にとって、実践能力の向上に繋がる良き機会となりました。看護学部教員の看護部活動への参加は、教員の看護実践力の維持に繋がるとともに、本院医療チームへの貢献を果たすことがモチベーションに繋がっており、今後、更に発展させていきたい事業です。

海外への渡航制限が一部解除されたことで、令和3年にオンラインで学术交流協力の覚書を締結したシンガポール国立大学ヨン・ルー・リン医学部アリス・リー看護学科へ令和4年8月に渡航をして、直接交流を深めることができました。大きく制限を受けてきた学术交流事業ですが、令和5年度からは、交流事業を再開していきたいと考えております。

看護学研究科では、看護学研究科の博士課程設置に向けた準備を本格的に開始致します。学部での看護学基礎教育、研究科での高度な看護実践家や研究者育成のための教育、看護職の卒後のキャリア支援教育などの取り組みを有機的に繋げ、更に魅力ある看護学部・看護学研究科へと発展させていきます。今後も皆さまのご支援ご鞭撻の程、お願い申し上げます。

皆さまのご健康と益々のご活躍を心から祈念致しまして、私からの年頭のごあいさつとさせていただきます。



謹賀新年

— 新たな年を迎えるに当たり、
ごあいさつ申し上げます。 —

病院長 道 勇 学

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

皆さまにおかれましては、日頃より愛知医科大学及び病院に対してご厚情を賜わり、先ずもって御礼申し上げます。

本院は、未だ収束が見出せないコロナ禍の大きな逆境の中にあっても全職員が病院の理念を忘れず、より強靱な団結のもと、決して留まることなく着実な歩みを進めています。本院が掲げる最も重要な達成目標は、言うまでもなく医療の質と安全性の継続的向上及び経営基盤強化に繋がる病院経営の発展的維持であり、特に、医療の質向上は本院にとっての使命です。私たちが目指すべき医療の質とは医療安全管理能力に裏打ちされた組織としての総合力であり、持続的かつ高度な医療安全管理体制の下で初めて更なる高度最先端な医療技術開発及び総合的臨床力普遍化に繋げることが可能となります。本院では医療安全管理室スタッフの多大な尽力により医療安全レベルを高く保ち、安全意識文化の継続的向上に努めてくれています。

また、患者中心の医療に必須の協働的意思決定の推進、臨床倫理委員会と臨床倫理コンサルテーションチームによるAdvanced Care Planning等の臨床倫理的課題への的確な対応にも着手しています。

一方、病院経営基盤強化は本学発展の根幹であることは必定です。本院は持続的コロナ禍の困難にも怯むことなく、新病院開院以来の経年的収入増加を達成してきています。今後は専門特化解析チームを結成し、種々の解析ソフトを活用した病院経営データ集計・分析を行うことで、より極め細やかな病院経営戦略を創出するシンクタンクを構築していきたいと考えています。

地域医療連携については、病-病間医療者人材交流促進及び医療連携センター並びに入退院支援センターの体制強化を図るとともに、連携先病院との実地的な転院調整会議や看護機能連携会議を開催しつつ、病院間相互利益関係構築、即ち「顔の見える連携」が着実に前進しています。この成果や構築された病-病連携体制は全病院的に周知されて、パイプの太い地域医療連携体制として同化しつつある現状が見えてきました。その具体例として挙がるのが多職種参加型の「愛知医科大学病院地域医療連携研修会・勉強会」で、より多くの方々に連携の中で共に学んでもらえる体制を構築・運営できるように配慮しています。

そして、今年から大胆な変革を遂げるのが救急医療体制です。理事長直轄経営戦略本部では、令和元年度末から救急医療体制改革プロジェクトが発足し、1次・2次救急と3次救急を統合した新たな救急体制の構築を進めています。救命救急科専任医師の増員、救急入院対応の強化を目的とした経過観察病床設置及び救急新棟増築、Hybrid-ER改築による愛知県重症外傷センター指定への対応、外傷救急診療体制の整備、各診療科専修医の救命救急科3か月配属による超診療科救急医療とも言うべき専門研修教育システムの確立が可及的かつ計画的に進められていきます。いよいよ「挑み」が始まります。

以上、本院の主な近況についてご紹介しましたが、最後に、大学・病院関係者の方々及び学報をお読みの皆さまのご健勝と、愛知医科大学、愛知医科大学病院の益々の発展・成長を祈念して、年頭のごあいさつとさせていただきます。

創立50周年記念事業募金のご協力をお願い ～先進の医療を人と社会と未来へつなぐ～

愛知医科大学は、昭和46年（1971年）に設置認可を受け、翌昭和47年（1972年）4月に開学しました。その後大学院医学研究科、看護学部、大学院看護学研究科を開設し、現在は2学部・2大学院研究科の学園体制となっています。

「建学の精神」の下、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針として定め、学是「具眼考究」を掲げ、教育・研究・診療の各分野において活躍すべく、勇往邁進に取り組んで参りました。

愛知医科大学は令和4年（2022年）4月に創立50周年を迎えました。次なる50年へ本学が飛躍していくため、「創立50周年記念事業（教育・研究・診療

の基盤整備事業）募金」の趣旨をご理解いただき、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



令和3年4月 メディカルセンター開院



令和4年1月 2号館4階に誘致



令和4年7月 眼科クリニック Mirai 開院

創立50周年記念募金 募集要項

募金目的 教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業資金

目標金額 10億円

募集金額 個人1口1万円，法人1口5万円

※できましたら、多数口のご協力をお願い致します。

募集方法 ①専用の払込取扱票による金融機関窓口でのお振込み

（払込取扱票をご希望の方は資金・出納室寄附金担当までお問い合わせください。）

②インターネットのお申込みによるクレジットカード、ペイジー等でのお振込み

税制優遇措置 所得税（法人税）の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。

税制手続きにより寄附金控除が適用されます。

スマホから寄附の
お申込みができます



お問合せ先

学校法人愛知医科大学 法人本部資金・出納室寄附金担当

TEL (0561) 63-1062 FAX (0561) 62-4866

E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp

愛知医大 募金

検索

創立50周年記念事業募金寄附者ご芳名 (敬称略)

創立50周年記念事業募金（創立50周年に向け先行した教育・研究・診療の基盤整備事業募金含む）にご協力いただき、心より御礼申し上げます。

ご寄附をいただいた皆さまへ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。（平成30年4月1日～令和5年1月31日現在）なお、創立50周年記念事業募金寄附者ご芳名は、愛知医科大学ホームページ（創立50周年記念事業募金）においても掲載しています。

募金総額：753,766,053円 募金者数：個人 594件、法人・団体 161件



瀬戸信用金庫からの
寄附に対する感謝状贈呈式

<個人>

| | | | | | | |
|--------|---------|--------|---------|--------|--------|--------|
| 青木 重久 | 青鹿 昌純 | 青山 邦彦 | 青山 俊博 | 青山 正寛 | 秋山 邦夫 | 秋山 征巳 |
| 浅井 和子 | 朝井 規仁 | 浅井 紀裕 | 浅井 博行 | 浅野 公造 | 浅野 貴徳 | 足立 義一 |
| 渥美 一成 | 天池 要治 | 天野 哲也 | 鮎川 浩志 | 有木 玄 | 有馬 隆紘 | 有賀 雅和 |
| 安藤 靖 | 飯田 章人 | 飯田 和子 | 池田 亜紀 | 池田 樹一 | 石川 厚子 | 石川 俊一 |
| 石澤 義也 | 石島 正嗣 | 石橋 宏之 | 石原 成光 | 泉 雅之 | 井田 雅章 | 市川 嘉一 |
| 市野 光太郎 | 伊藤 恵一 | 伊藤 壽美 | 伊藤 后子 | 伊藤 恭彦 | 犬丸 達也 | 井上 順子 |
| 井上 里恵 | 今井 紀子 | 今井 裕一 | 今枝 佑輔 | 岩田 裕次 | 岩船 徹雄 | 岩村 文貴 |
| 上野 隆彦 | 宇佐美 覚了 | 宇佐美 公子 | 牛田 享宏 | 内田 稔也 | 内山 弘子 | 内海 眞 |
| 戎井 浩二 | 老沼 和弘 | 大須賀 友晃 | 太田 浩敏 | 大野 和子 | 大野 則和 | 大橋 由政 |
| 岡 義隆 | 岡川 友子 | 岡川 行重 | 岡澤 光修 | 岡田 永三 | 緒方 昌平 | 岡田 太郎 |
| 岡野 敏明 | 岡野 七重 | 岡村 憲樹 | 岡本 英丈 | 岡本 雄一 | 岡本 利一 | 小川 麻子 |
| 小川 徳雄 | 奥田 直樹 | 奥永 知宏 | 奥山 誠 | 長田 和久 | 落合 文雄 | 折本 有貴 |
| 海原 彰二 | 各務 秀明 | 笠井 謙次 | 梶浦 克之 | 春日井 邦夫 | 春日井 孝 | 勝野 正英 |
| 加藤 浩二 | 加藤 純子 | 加藤 豊文 | 加藤 宏泰 | 加藤 正治 | 加藤 雅通 | 加藤 唯 |
| 加藤 庸子 | 加藤 龍寿 | 金谷 雄生 | 金桶 陽 | 神谷 英紀 | 神谷 美帆 | 狩浦 一男 |
| 川合 尚 | 河井 丈幸 | 川崎 恭典 | 川谷 陽子 | 川本 恵子 | 河本 博喜 | 神戸 康秀 |
| 完山 秋子 | 完山 紘平 | 岸川 典明 | 岸本 知樹 | 木原 幹洋 | 金 節子 | 木村 光利 |
| 木村 行宏 | 金 日成 | 久野 健一 | 久野 里佳 | 久保 昭仁 | 久保田 雅博 | 黒川 道雄 |
| 黒木 玲子 | 小出 詠子 | 幸野 照 | 小島 順司 | 小杉 将仙 | 小塚 聡 | 小天 和也 |
| 後藤 雄州 | 後藤 淳 | 後藤 英之 | 後藤 八千代 | 小西 健一 | 小林 加奈子 | 小林 孝彰 |
| 小林 徹 | 小林 博文 | 小林 史樹 | 小林 良太 | 小森 直之 | 小森 睦美 | 近藤 忍 |
| 近藤 瑞枝 | 佐井 紹徳 | 齋藤 隆司 | 齋藤 庸男 | 齋藤 照男 | 西塔 誠幸 | 才村 弘也 |
| 三枝 純一 | 三枝 園子 | 酒井 有理 | 榊原 綾子 | 坂巻 隆男 | 坂本 真理子 | 坂本 洋子 |
| 佐々木 拓次 | 佐々木 裕茂 | 佐々木 誠人 | 佐々木 祐一郎 | 佐藤 千代香 | 佐藤 元彦 | 佐藤 良幸 |
| 實政 裕 | 塩見 利明 | 篠原 康一 | 篠原 早紀 | 柴野 英典 | 柴山 始久 | 島田 孝一 |
| 嶋吉 敏文 | 志水 明浩 | 清水 國樹 | 清水 宗久 | 清水口 彩加 | 心光 世津子 | 杉本 泰洋 |
| 鈴木 幸司 | 鈴木 伸 | 鈴木 信吉 | 鈴木 泰子 | 住田 香澄 | 千田 憲一 | 千田 弘子 |
| 宗宮 教壹 | 園田 和生 | 祖父江 元 | 高瀬 かね子 | 高田 勝 | 高田 麻哉子 | 高橋 佳子 |
| 高橋 進 | 高橋 孝子 | 高橋 知生 | 高橋 史成 | 高橋 靖弘 | 高見 昭良 | 高村 祥子 |
| 高柳 友子 | 高柳 泰世 | 武居 敦英 | 竹田 幸祐 | 武田 千代子 | 竹原 俊夫 | 竹原 成浩 |
| 竹本 昌三郎 | 多々内 友美子 | 田中 一字 | 田中 一正 | 田中 信彦 | 田中 英成 | 田中 正彦 |
| 田中 元和 | 田中 元子 | 田中 元也 | 田邊 和彦 | 田邊 直樹 | 玉田 としこ | 塚 晴俊 |
| 番井 利恵 | 塚本 芳春 | 對馬 伸晃 | 都築 豊徳 | 都築 史恵 | 土井 浩史 | 堂森 丈正 |
| 遠山 美智子 | 富樫 孝 | 土岐 八雄子 | 富田 幸嗣 | 富田 裕一 | 中川 洋 | 中川 喜博 |
| 中島 隆世 | 中島 鉄夫 | 中嶋 博久 | 中筋 名保恵 | 中田 知男 | 仲谷 宗裕 | 長縄 三千代 |
| 中西 照明 | 中野 久美 | 中野 正吾 | 中村 悟己 | 中村 誠 | 中山 貴子 | 成田 篤彦 |
| 成田 憲治 | 成田 祥子 | 西井 裕和 | 西田 恒紀 | 西塚 麻代 | 西村 基 | 西山 耕 |
| 西山 幸男 | 西脇 晶子 | 野崎 宗信 | 野場 万司 | 長谷川 恒雄 | 羽根田 雅巳 | 早川 千代子 |
| 林 和子 | 林 清博 | 林 博子 | 林 基志 | 林 嘉輝 | 葉山 国城 | 原 遠 |
| 肥後 夏月 | 樋上 啓子 | 樋上 泰成 | 平野 達也 | 廣川 光之 | 廣瀬 真仁 | 廣瀬 善道 |
| 深井 健一 | 深田 大 | 福井 高幸 | 福岡 孝泰 | 福澤 嘉孝 | 福智 寿彦 | 藤田 守彦 |
| 藤林 孝義 | 藤本 保志 | 藤原 祥裕 | 二神 正文 | 二村 真秀 | 古井 景 | 古岡 邦人 |
| 古川 洋志 | 古田 朋子 | 細川 好孝 | 堀田 幸嗣 | 堀部 博 | 堀本 恵子 | 前田 一成 |

| | | | | | | |
|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 牧野 吉秀 | 増岡 尚子 | 間瀬 武則 | 町田 智美 | 松井 康哲 | 松尾 高嗣 | 松岡 哲平 |
| 松平 早苗 | 松平 仁 | 松本 拓也 | 松本 芳子 | 松山 英里子 | 松山 華奈美 | 三浦 久美子 |
| 三嶋 廣繁 | 水谷 正子 | 水野 昌平 | 水野 真理 | 水本 強一 | 三岡 裕貴 | 箕浦 恵 |
| 宮下 直人 | 宮地 茂 | 宮本 知 | 村上 恒久 | 村松 忠 | 森 俊彰 | 森川 彰子 |
| 森川 晋吾 | 森田 絵万 | 安井 幸藏 | 柳 利男 | 柳澤 和裕 | 柳原 崇 | 矢野 浩一郎 |
| 矢野 智紀 | 山尾 令 | 山川 ありさ | 山川 日出雄 | 山口 孝太郎 | 山口 力 | 山崎 節正 |
| 山田 大介 | 山田 敏子 | 山田 德行 | 山田 晴生 | 山田 昌樹 | 山中 寛紀 | 山本 順一郎 |
| 山本 千廣 | 山本 秀明 | 山本 祐歌 | 山本 美子 | 梁 裕昭 | 横井 喜代子 | 横内 定明 |
| 吉江 康二 | 吉田 一亮 | 若杉 里実 | 若槻 明彦 | 脇田 慎司 | 早稲田 勝久 | 渡邊 栄三 |
| 渡邊 大輔 | 渡辺 貴昭 | 渡邊 寿則 | 渡邊 一司 | 渡邊 慎 | 渡會 恒久 | |

匿名 167件 (五十音順)

<法人・団体>

| | | |
|---------------------|------------------------|--------------------------|
| 医療法人相生会稲川耳鼻咽喉科 | 一般財団法人愛知医科大学愛恵会 | 愛知医科大学医学部後援会 |
| 愛知医科大学看護学部同窓会 | 愛知医科大学看護学部父母会 | 一般社団法人愛知医科大学同窓会 |
| 愛知医大サービス株式会社 | あいち尾東農業協同組合 | 朝日機器株式会社 |
| 株式会社梓設計 | 安藤建設株式会社 | 医療法人社団生き生き会 |
| 医療法人H&H | 株式会社エバ | 株式会社エフエスナゴヤ |
| オオサキメディカル株式会社 | 株式会社オーテック環境システム事業部中部支店 | 株式会社大林組名古屋支店 |
| 株式会社オカムラ | 株式会社カーク | 掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター |
| 鹿島建設株式会社中部支店 | 鹿島建物総合管理株式会社中部支社 | 川重冷熱工業株式会社 |
| 医療法人社団喜峰会東海記念病院 | 医療法人社団京愛会 | 株式会社きんでん中部支社 |
| 医療法人久和会 | 医療法人櫻の森 | けんこう長寿株式会社 |
| 株式会社コアズ | 医療法人絃心会 | 医療法人幸福会とみやす整形外科クリニック |
| 医療法人香徳会 | 株式会社サーティーフォー | 医療法人幸会 |
| 医療法人社団さかいファミリークリニック | 株式会社桜木不動産コンサルタント | 三機工業株式会社中部支社 |
| 三友電子株式会社 | シーアンドエス株式会社 | 株式会社シーエナジー |
| 有限会社シーメディックス | 医療法人篠崎医院 | 株式会社篠田商会 |
| 医療法人湘山会眼科三宅病院 | 医療法人勝心会芳賀クリニック | 医療法人如水会 |
| 医療法人如水会鈴鹿腎クリニック | 有限会社シルバーホームほのほの | 医療法人社団崇仁会船戸クリニック |
| 医療法人スズムラ眼科医院 | 医療法人すまいる皮フ科クリニック | 星光ビル管理株式会社 |
| 積水メディカル株式会社 | 瀬戸信用金庫 | 株式会社セレスポ名古屋支店 |
| 株式会社ソラスト名古屋支社 | タイガー総業株式会社 | 医療法人社団大誠会 |
| 社会医療法人大雄会 | 株式会社タスクフォース名古屋支店 | 株式会社田中葬具店 |
| 中部連合読売会 | TMES株式会社 | 電子システム株式会社 |
| 医療法人東海眼科 | 東京音楽工業株式会社 | 株式会社トーエネック |
| トーテックビジネスサポート株式会社 | 豊田信用金庫 | 株式会社トラム |
| 医療法人長尾会・ねや川サナトリウム | 中尾産業株式会社 | 株式会社ナカシマ |
| 中日本航空株式会社 | 株式会社名古屋医理科商会 | 株式会社名古屋銀行 |
| ナゴヤホカンファシリティーズ株式会社 | 医療法人にのみ歯科医院 | 株式会社ニチイ学館 |
| 日本建築検査機構株式会社 | 一般社団法人日本造血細胞移植データセンター | 株式会社庭萬 |
| ネットワンシステムズ株式会社 | 株式会社馬場器械店 | 日の出衛生保繕株式会社 |
| 医療法人平竹クリニック | 医療法人福智会 | 医療法人福智会すずかけクリニック |
| 医療法人福友会 | 不二印刷工業株式会社 | 富士産業株式会社 |
| 医療法人ふれあい会 | 株式会社堀場測量設計 | 株式会社マイナビ |
| 三浦工業株式会社春日井支店 | 医療法人美衣会衣ヶ原病院 | 三菱電機ビルソリューションズ株式会社中部支社 |
| ミヤリサン製薬株式会社 | 村角工業株式会社 | 医療法人明眼会西垣眼科医院 |
| 名鉄バス株式会社 | 株式会社メック | 医療法人もみじ会田崎医院 |
| 株式会社山菊 | 株式会社山岸設備 | 株式会社山下設計 |
| 医療法人行橋クリニック | 株式会社ライス加納 | 理科研株式会社 |
| 株式会社リイツメディカル | 医療法人る・おてい・らばん | 医療法人和光会 |
| ワタキューセイモア株式会社 | | |

匿名 20件 (五十音順)

寄附申込みに当たりご芳名の掲載を許諾いただいた方のみ掲載しています。

愛知県から愛知県政150周年記念感謝状贈呈

令和4年11月27日（日）、愛知芸術文化センター愛知県芸術劇場大ホールにおいて、愛知県政150周年記念式典が行われ、道勇学病院長が理事長の代理として、愛知県の大村秀章知事から愛知県政150周年記念感謝状【写真】を贈呈されました。

感謝状は、県政150周年を記念し、愛知の150年の歩みを振り返り、県行政の推進や産業の発展などに功績・功労のある団体・企業に対し贈呈されましたが、本学関係では、教育文化の振興に貢献した団体として「学校法人愛知医科大学」、保健医療の向上に貢献した団体として「愛知医科大学病院」及び「愛知医科大学メディカルセンター」が選定されました。



黒田 幸恵元看護部副部長 秋の叙勲の栄誉

本院元看護部副部長の黒田幸恵さんが、令和4年秋の叙勲において瑞宝単光章を授与されました。心からお祝い申し上げます。

黒田さんは、昭和57年から本院に勤務され、産科・婦人科病棟において助産師としての経験を積まれました。平成元年に主任、平成5年には助産婦長（後に助産師長）へと昇任されると、助産・看護の長年のキャリアを積まれると同時に、部下の育成にも尽力されました。その後、平成20年に看護部副部長へ昇任され、人材教育や、院内の環境改善に大きく貢献されました。また、助産師としての経験を活かし、院外の委員会活動にも積極的に参加されました。

平成31年に定年退職を迎えられた後、公益社団法人愛知県看護協会教育センターで認定看護管理者教育課程の専任教員を担当され、愛知県の認定看護管理者の教育に力を注がれています。



瑞宝単光章を授与された黒田さん



令和4年度永年勤続者表彰

令和4年11月22日（火）午後3時から、大学本館
たちばなホールにおいて令和4年度永年勤続者表彰
式が行われました。

式では、祖父江元 理事長から表彰状が授与され、
被表彰者へのお祝いとお礼の言葉とともに、「長く
勤めていただく方々がおられるというのは、非常に
嬉しく、ありがたいことでございます。今日は本当
におめでとうございます。」とあいさつがあり、被
表彰者を代表して、看護部の大高通代看護師長から
謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。永年勤続
者表彰者は、次のとおりです。



謝辞を述べる大高看護師長

30年勤続者（13名）

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 有友由美子 | 今井 正人 | 大高 通代 | 川谷 陽子 | 近藤 賢一 | 佐野 亮介 | 武井 弘一 |
| 塚本実奈子 | 百々 邦剛 | 中野 弓子 | 宮木 正敏 | 山辺 康夫 | 渡邊 秀子 | |

20年勤続者（17名）

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 浅野永美花 | 岩下 宣彦 | 岩瀬 光範 | 梶田 朱美 | 蔵本 令子 | 近藤 篤子 | 坂野 優子 |
| 佐々木裕子 | 佐藤 麻紀 | 白井 裕子 | 中野 正吾 | 濱野 浩一 | 藤村木久美 | 水野 陽子 |
| 宮澤 恭子 | 山田 徳香 | 山入端祐果 | | | | |

10年勤続者（70名）

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 浅野いずみ | 天野 哲也 | 有田 竜太 | 池戸 真菜 | 池本 竜則 | 石原 淳二 | 伊藤ありさ |
| 伊藤 清顕 | 伊藤 雄城 | 井上 真輔 | 井上 千裕 | 宇佐美 潤 | 梅澤 一夫 | 大澤 充晴 |
| 大坪 弘明 | 片山 彩乃 | 加藤 健太 | 加藤 智英 | 加藤奈保子 | 加納 洋亮 | 川本 早苗 |
| 岸田かほり | 熊谷 法子 | 小城 良江 | 佐合 範彦 | 佐藤 元彦 | 佐藤 由喜 | 塩入 達政 |
| 杉木 直人 | 鈴木 昭博 | 須田 康介 | 高林 拓也 | 高柳 佳弘 | 竹井 沙織 | 田中 拓哉 |
| 田中 真美 | 津川 健 | 土本 純 | 寺島 嗣明 | 長江 亜希 | 中野 潤一 | 中野 雄介 |
| 中村 瞳 | 中山 敬太 | 中山 享之 | 西川紗也子 | 野々 健太 | 服部 彩華 | 樋口 綾華 |
| 平澤 敦彦 | 深津 孝英 | 榊田 未紘 | 間瀬 詠子 | 三浦 祐揮 | 三嶋 秀行 | 壬生 弘美 |
| 村上 美佳 | 茂木 彩乃 | 森 稔高 | 森川 智子 | 安本 明弘 | 柳瀬 敦志 | 山崎 寿馬 |
| 山下 絢加 | 山下 聡子 | 山下 敏史 | 吉井 亮磨 | 吉田 敦美 | 若杉 里実 | 早稲田勝久 |

(100名：五十音順・敬称略) ※氏名掲載は希望者のみ。表彰状に記載されている氏名としています。

訃報

永田 昌久名誉教授 御逝去



令和4年12月1日（木）に永田昌久名誉教授（外科学講座（心臓外科））がご逝去されました。享年83歳でした。

永田先生は、昭和41年3月に名古屋大学医学部を卒業され、昭和50年7月に愛知医科大学医学部外科学第2講座の講師として着任後、平成8年4月に教授へ昇任されました。その後の講座再編に伴い、外科学講座（心臓・血管外科）を経て、外科学講座（心臓外科）の教授として活躍され、教育、研究、診療に本学の設立間もない頃から尽力されるとともに、動物実験センター長、看護専門学校長としても大学の運営に助力し、本学の発展に多大に貢献されました。

また、研究指導面では開心術中の心筋保護法、

開心術中の補助手段、補助循環など自身の研究分野である心臓外科分野にとどまらず、閉塞性動脈硬化症、静脈疾患などの末梢血管外科領域、気管支再建、呼吸器疾患の病態生理といった呼吸器外科領域などの多方面に亘り大学院生の研究指導に従事されました。

これまでに日本循環器学会東海地方会会長、日本血管外科学会東海北陸地方会会長、東海外科学会会長、中部外科学会会長、関西胸部外科学会会長を務められ、循環器領域の学会の発展に大きくかかわるとともに、多くの学会の名誉会員、特別会員、評議員として学会の活性化に参画されただけでなく、愛知県医師会代議員としても社会活動に貢献されました。

ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

加藤 剛名誉教授 御逝去



令和4年12月5日（月）に加藤剛名誉教授（英語）がご逝去されました。享年93歳でした。

加藤先生は、昭和27年3月に名古屋大学岡崎高等師範学校英語科を卒業され、昭和53年4月に愛知医科大学英語担当の助教授として着任後、昭和58年7月に教授へ昇任されました。学生部次長、教務部次長、学生部長を歴任し、長年にわたり学生の生活指導に尽力されるとともに、医学教育改善専門委員会委員として大学設置基準の改正に伴うカリキュラム改革や平成6年度から実施された新カリキュラムの編成に貢献するなど、本学の医学教育の進展及び後進の指導に大きく寄与されました。また、総務委員会委員、入学試験委員会委員、予算委員会委員、医学情報センター運営委員会委員のほか多数の各種委員会委員

を務められ、本学の運営に貢献される一方、昭和59年5月に学校法人愛知医科大学の評議員に就任し、学校法人の運営にも大きく尽力されました。

なお、先生は本学就任以来その豊富な英語教育学の知識と経験を活かし、本学の英語教育充実のために惜しみない努力を重ね、特に、English for Specific Purposeとしての医学英語教育の在り方を求めて、医科大学における英語教育の実践を研究し、本学における「医用英語」を軌道にのせるなど熱い情熱を注がれました。

更に、日本英文学会会員、大学英語教育学会会員、語学ラボラトリー学会会員として、特に語学ラボラトリー学会中部支部では役員として活躍するなど、我が国における英語教育の向上発展にも貢献されました。

ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和5年新年祝賀式挙行

令和5年1月4日（水）午後3時から大学本館たちばなホールにおいて、新年祝賀式が行われました。

【写真】

祝賀式では、祖父江元 理事長から、「昨年11月3日（木・祝）に行われた創立50周年記念式典への多数のご出席，記念事業へのご協力誠にありがとうございました。本学の今後の発展に向けた流れを更に活性化させていきたいと思っています。そのために、今後いくつかのプロジェクトを展開し事業活動収入の大幅な増収を目指します。記念事業の一つである『リハビリテーション医療の充実』では、次世代型の先進的なリハビリ医療・人材教育の充実に取り組み、近い将来には本学リハビリテーション学部の設置を目指しています。また、『救急医療体制改革プロジェクト』では、今後第二次改革として、救急体制の構造的改変，外傷センターの整備・設置，



Hybrid-ERの導入，救急教育の充実等の課題に取り組めます。そして、令和6年4月から医師への時間外労働上限規制適用に伴い、『医師の働き方改革』にも取り組んでいます。時間外労働時間960（1,860）時間以下と連続時間制限・勤務時間インターバル規制を達成目標としています。皆さまにも是非ご協力いただければと思います。」とあいさつがありました。

創立50周年記念樹「橘」植栽

令和4年11月3日（木・祝）に名古屋観光ホテルで開催された、愛知医科大学創立50周年記念式典において、校章のモチーフである「橘」の木の植樹イベントが実施されました。各界からのご来賓及び本学関係者の手によって植樹された橘の木は、このたび、令和5年1月18日（水）に7号館（医心館）前

に植え替えられました。【写真】創立50周年を無事に迎えた本学が、次の50年に向け医療の未来をひらいていくとともに、この「橘」の木も50周年記念樹として今後スクスクと成長していくことを願っています。

お近くへお越しの際には、是非ご覧ください。



令和3年9月9日「救急の日」の本学広告が 第13回中日新聞広告大賞部門賞を受賞

令和3年9月9日に中日新聞朝刊に掲出した全15段カラー広告「9月9日は『救急の日』」が、読者及び専門家による審査により、第13回中日新聞社広告大賞「読者が選ぶ中日新聞広告賞」の文化・教養の部の部門賞を受賞し、令和4年9月9日（金）に帝国ホテル東京において表彰式が行われました。

選考基準としては、①楽しさ、豊かさが感じられる、②暮らしに役立つ新しい情報が得られる、③新聞広告の特性や新しい魅力を引き出している、④話題性や社会性がある、⑤広告内容がよく伝わっている、の五つの点を踏まえた上で、本学の広告が「コ



表彰盾

ロナ禍で改めて感じた医療の必要性。ドクターヘリや高度救命救急センターの導入、医療にか



中日新聞掲載広告 (R3.9.9)

かわる人材の育成を後押しする姿勢を示す広告に、気持ちが強くなった。」などの高い評価をいただきました。

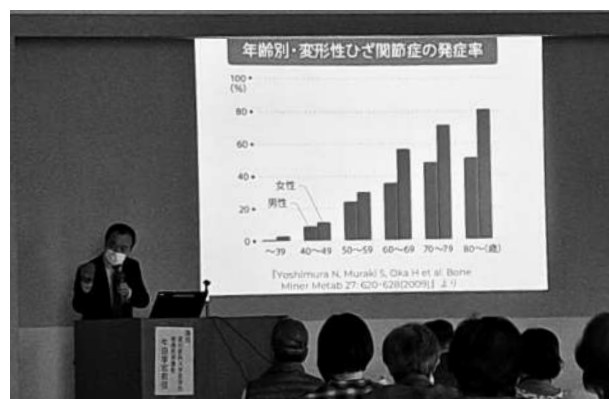
これからも読者に本学の魅力を発信できるような広告の制作に努めます。

愛知医科大学公開講座（瀬戸市連携事業）

令和4年11月8日（火）午後2時から、瀬戸市やすらぎ会館5階大集会室において、瀬戸市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

昨年度に引き続きコロナ禍での実施であることから、広い会場を定員の半数に制限して開催し、疼痛医学講座の牛田享宏教授が、「痛みの正体を考える」と題し、痛みを感じる仕組みや痛みとうまく付き合う方法などについて講演されました。

具体的な症例をもとにした痛みのメカニズムについての興味深いお話に、参加者は真剣に聞き入っていました。参加者からは「痛みの原因が病気による



ものだけではないことが分かった。」「痛みはつらいが動かしていくことも大切。」などの感想があり、大変盛況な講座となりました。

愛知医科大学公開講座（尾張旭市連携事業）

令和4年11月18日（金）午後2時から、スカイワードあさひ6階ひまわりホールにおいて、尾張旭市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

昨年度に引き続きコロナ禍での実施であることから、広い会場を定員の半数に制限して開催し、運動療育センターの若林淑子特務事務長が、「簡単で分かりやすいマインドフルネス瞑想」と題し、マインドフルネス瞑想を通じ、心豊かに過ごすための方法などについて講演されました。

瞑想の効果やメカニズムの説明の後には、心地よいBGMが流れるなか、参加者全員がマインドフルネス瞑想を実践しました。参加者からは「心と身体



がスッキリした。」「毎日瞑想を続けていきたい。」などの感想があり、大変盛況な講座となりました。

愛知医科大学公開講座（長久手市連携事業）

令和4年11月24日（木）午後2時から、長久手市保健センター3階会議室において、長久手市との連携事業として公開講座が開催されました。【写真】

昨年度に引き続きコロナ禍での実施であることから、会場定員の半数以下と規模を縮小して開催し、「認知症の診断と治療～アルツハイマー型認知症を中心に～」と題して、加齢医科学研究所の岩崎靖教授が講演されました。

データや認知症の脳画像を基に、認知症の種類や特にアルツハイマー型認知症の特徴について講演され、発症予防や進行予防が重要であると説明がありました。参加者からは、「認知症にならないために



規則正しい生活を送り、ウォーキングなどの運動を継続したい。」などの感想があり、大変有意義な講座となりました。



献血ご協力ありがとうございました

令和5年1月11日（水）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方にご協力いただきました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々は、ご自愛いただき、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

冬の団体献血（結果）

| | |
|------------|---------------------|
| ・献血受付数 | ・45名 |
| ・献血できた方 | ・39名 (400mL・32名) |
| ・献血できなかった方 | ・6名 |

次回は令和5年6月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願ひします。

令和4年度介護施設等防災リーダー養成研修開催

本学は、昨年度に引き続き愛知県委託事業「令和4年度介護施設等防災リーダー養成研修事業」に採択されたことから、災害医療研究センターが中心となり、介護施設等の従事者を対象とした「防災リーダー養成研修」が6回にわたり開催されました。コロナ禍ではありましたが、十分な感染対策の下、対面形式での実施となり、200名を超える参加がありました。

本事業は、近年頻発している大規模地震などの激甚災害に対して、要配慮者を預かる介護施設等がどのように対策を講じて備えていくかを考え、「防災リーダー」を養成することを目的としています。

過去の事例や愛知県の被害予測を踏まえた講義及び机上演習が行われ、各施設における危機意識の向上及びBCP（事業継続計画）の見直しに繋がる研修となりました。



机上演習の様子

研修後のアンケートでは、研修プログラムに対して多くの方々から好評を得ており、「実際の被災体験を聞き、災害時初動の手法を実行できるよう平時の対策が大切だと思った。」「他機関との交流ができて良かった。」などの感想があり、大変有意義な研修となりました。

| | 日 程 | 対 象 | 会 場 |
|---------|----------------------|------|---------------------------|
| 第1回・第2回 | 令和4年10月27日（木）・28日（金） | 尾張地区 | 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 |
| 第3回・第4回 | 令和4年12月6日（火）・7日（水） | 三河地区 | 豊橋商工会議所 |
| 第5回・第6回 | 令和5年1月12日（木）・13日（金） | 県内全域 | 日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 |

令和4年度愛知県災害医療コーディネータ研修開催

令和5年1月22日（日）及び29日（日）の2日間、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院において、本学を含め、愛知県と愛知県医師会の三者共催による令和4年度愛知県災害医療コーディネータ研修が開催されました。

本事業は、愛知県内における大規模災害発生時の地域コーディネータ力の充実・強化を図ることを目的として、本学災害医療研究センターが中心となり、平成27年度から実施されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度以来の対面形式での開催となりました。

県内の医師会、保健所、災害拠点病院、看護協会から、医師、コメディカル、事務職員など2日間で72名の参加がありました。災害対応に関する講義聴講後には、所属機関の地域ごとに、地図を使って災



地図を使った机上訓練の様子

害の状況が見える化し、防災対策を検討する机上訓練が行われ、活発な意見交換がなされました。

災害医療研究センターでは、南海トラフ地震や各種災害における犠牲者を軽減するため、災害医療の教育・研究をより積極的に進めて参ります。

大学コンソーシアムせと「大学生によるまちづくり活動」実施

本学が加盟する大学コンソーシアムせとの助成金事業である「大学生によるまちづくり活動」が、令和4年8月27日（土）にオンラインで、10月15日（土）・11月5日（土）にパーティセと4階マルチメディアルームにおいて行われました。

この事業は、大学生の成長及び自立を促し、その活動成果が地域社会の発展に資することを目指しており、本学の学生ボランティアサークルHIAMU（Heart in Aichi Medical University）が愛知淑徳大学の学生団体CCC（Community Collaboration Center）と協力し、3年連続して参加しています。今年度は、「運動や体験をして身体と健康について学ぼう！～医療と介護で人々を支える仕事～」と題して、瀬戸市の子どもたちが医療や介護で人々を支える仕事について学ぶことで、将来、そのような仕事をめざすきっかけとなるような活動が行われました。

医学部3学年次生のHIAMU代表である大濱桜さんと副代表の田中透さんが中心となり、両大学の学生間でオンラインミーティングを重ね、3回の講座を企画しました。1回目のオンラインで開催された



経口補水液作りを実演する医学部3学年次生の渡邊峻さん

「医者というお仕事を知ろう！」では、医者に関するクイズを行い、子どもたちの質問にも答えました。対面で開催された2回目の「介助犬を知ろう！」と3回目の「熱中症について知ろう！」では、十分な感染対策をした上で、介助犬のデモンストレーションや経口補水液作りなどを楽しく体験し、学んでもらいました。参加した子どもたちからは、「将来医者を目指したい。」「また参加したい。」などの声を聞くことができました。

今後も子どもたちが新たな学びを発見できる活動を継続していく予定です。

令和4年度大学コンソーシアムせと「カレッジ講座」開催

令和4年11月12日（土）に、瀬戸市のパーティセと4階マルチメディアルームにおいて、本学看護学部看護実践研究センター地域連携・支援部門の河井文幸助教が講師となり、大学コンソーシアムせと「カレッジ講座～フレイル予防で人生100年時代を元気に生き抜こう！～」が開催されました。【写真】

健康上の問題がない状態で日常生活を自立して送ることができる健康寿命と、平均寿命との差は10年あると言われており、講座では、その差を少しでも縮めることの重要性が説明されました。また、簡単な体操も行いながら、健康寿命に必要な「栄養」・「運動」・「社会参加」の三つのポイントについて参加者に学んでいただきました。

今回は、会場36名、オンライン（Zoom）9名の合計45名の市民が参加し、参加者からは、「とても勉強になりました。家でも意識して行いたいと思



ます。」、「体操を少しずつでも実行しようと思っています。」などの感想が寄せられ、盛況のうちに幕を閉じました。

今後も、看護実践研究センター地域連携・支援部門では、大学コンソーシアムせとにおいて、地域住民の皆さまのニーズに即した講座を企画していく予定です。

学内研究ユニット発表会開催

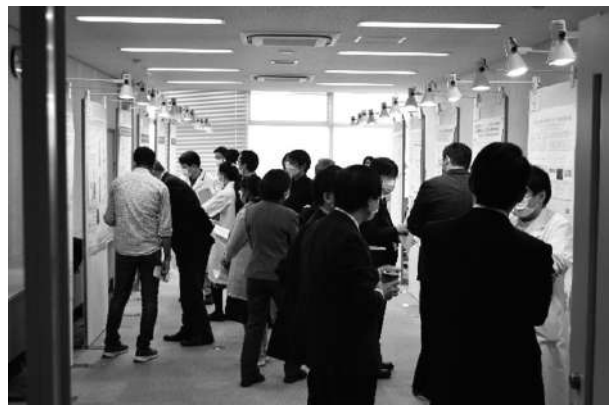
令和4年12月16日（金）に大学本館7階会議室等において、学内研究ユニット発表会が開催され、各ユニット研究代表者によるプレゼンテーション発表と各ユニット及び学内外研究者によるポスター発表が行われました。

「研究ユニット創出支援事業」は、学内の研究活性化を目的として、分野横断的な「研究ユニット」を組織して、各ユニットで研究を遂行するもので、その研究成果の発表の場として、学内研究ユニット発表会が行われました。

発表会当日は、プレゼンテーション発表14課題、ポスター発表28課題の研究成果発表が行われ、会場参加者は102名、プレゼンテーション発表のオンライン参加者は24名、合計126名の研究者等が参加しました。発表会を通じて多くの研究者間での活発な意見交換や研究内容に関する質疑応答があり、大学全体の研究交流会の場として活用されることで非常に有意義なものとなりました。



各ユニット研究代表者によるプレゼンテーション



ポスター発表の様子

令和4年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では、「SD（スタッフ・ディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

令和4年度新規採用事務職員半年フォロー研修実施

令和4年11月29日（火）及び12月21日（水）大学本館701会議室において、令和4年度新規採用事務職員を対象に、配属後半年を一つの区切りとした半年フォロー研修が実施されました。

本研修では、4月に入職した事務職員だけではなく、5月以降に入職した事務職員も受講し、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、令和4年度採用の事務職員同士の仲を深め、部署を越えた人間関係づくりを行うとともに、入職から約半年間を振り返りました。今年度は、「自身のキャリア」と「物事を前向きに捉える考え方を身に付けるリフレーミング」をテーマとして、グループワークや全体での意見共有が行われました。

受講者からは、「半年間の業務や自分の考えを改めて見つめ直す良い機会になった。」「日頃関わりのない同期と話し、色々な意見を聞くことができてよかった。」といった感想がありました。



研修及びグループワークの様子

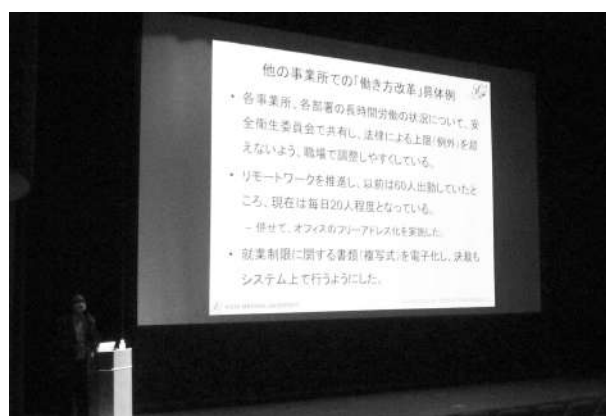
本学の将来を担う人材を育成するために、今後も積極的に様々な研修に取り組んでいく予定です。

産業医講演会開催

令和4年12月5日（月）午後4時から大学本館たちばなホールにおいて、「働き方改革の先にあるものは？」というテーマで産業医講演会が開催されました。なお、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、出席者の人数制限を設けることに加え、講演会後に動画配信を行うことを事前に周知の上、開催されました。

講演会では、本学の産業医である衛生学講座の鈴木孝太教授から、働き方改革のための取り組みや目指すべき結果について、具体的事例やダイバーシティ・ワークライフバランスといった関連キーワードを交えながらご説明いただきました。

研修会後のアンケートでは、「現代における労働のあり方を踏まえた分かりやすい講演だった。」「働き方改革は事業所が取り組むべきものと思っていたが、講演を聴



働き方改革について説明する鈴木教授

いて意識を変化させるなど個人でできることもあると感じた。」など、好意的な意見が多くありました。今後も引き続きこの産業医講演会を開催し、教職員のメンタルヘルスの理解へ繋げていく予定です。

事務職員向け学内研修実施

令和4年6月から、事務職員が各部署の業務内容と最新情報を理解することで知識向上と業務の効率化を図ることを目的として、事務職員向け学内研修が実施されました。実施に当たり、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、各回定員を設けての実施となりました。

同じ事務職員でも、他部署がどのような仕事をしているのかについて普段なかなか知る機会がありませんが、この学内研修を通して、各部署の業務内容、他部署と

の違い、業務において気を付けるべきポイントなどについて、研修講師から説明があり、基本的知識や最新情報を事務職員同士で共有することができました。

受講者からは、「業務上の接点が少ない部署について、研修を通して理解を深めることができた。」「業務内容を理解したことで、相談がしやすくなった。」といった感想がありました。今後も様々な研修を実施することで、事務職員の知識向上と情報共有の機会を設ける予定です。

＜事務職員向け学内研修＞ ※所属・職名は開催日時点

開催日：12月7日（水）

テーマ：総合学術情報センター事務室

（情報基盤部門・ICT支援部門）の業務紹介

講師：伊藤慶正

（総合学術情報センター事務室、主査）



開催日：12月14日（水）

テーマ：地域医療連携課の業務紹介

講師：増田阿耶（地域医療連携課、主任）



事務系管理職研修実施

令和4年12月23日（金）午後3時から大学本館711特別講義室において、事務系管理職を対象とした管理職研修が実施され、事務系管理職25名が参加しました。

本研修は愛知県から講師を招き、「愛知県における行政のデジタル化」というテーマで実施され、デジタル化やDXに関する国の動きや愛知県における取り組み事例等について説明がありました。

受講者からは、「普段知る機会のあまりない内容でしたが、分かりやすい説明で、思っていた以上に愛知県がデジタル化に取り組んでいることが分かった。」「世の中の流れ、愛知県のデジタル化が本学よりも先を進んで



研修の様子

いたことを知ることができて良かった。」といった感想がありました。

教授就任インタビュー



整形外科科学講座・教授

たかはし のぶのり
高橋 伸典

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

令和4年11月1日付で整形外科科学講座の教授を拝命致しました。今後とも、どうぞよろしくお願ひ致します。

整形外科は大変幅広い分野を担当する診療科です。入り口は外傷治療ですが、その先には四肢外傷外科、関節外科、脊椎外科、スポーツ外科、手の外科、リウマチ外科、骨軟部腫瘍外科など多彩なサブスペシャリティがあり、それぞれに多様な人材が楽しく働いています。整形外科の面白いところは、例えば関節外科と脊椎外科では扱う疾患も手術も全く異なりますが、外傷治療をルーツとする同じ整形外科医として仲良くまとまりが良いという点です。私の仕事は、そのような本学整形外科の良い特性を継承しつつ、更に発展させることです。まず、外傷治療を充実させて全国に発信したいと思います。外傷治療を体系的に学ぶことは、研究者としての整形外科医人生の出発地点となりますので若手医師にとっても大変重要です。また、整形外科医といえば力持ちの体育会系男子という画一的なイメージがありますが、多彩な分野を包括する診療科として、誰でも充実したキャリアパスを描ける講座にしたいと思います。患者さんの痛みと生活に寄り添うことができる、優しい整形外科医を一人でも多く育成して、胸を張って次の世代に引き継げるよう、全力を尽くします。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

色々迷いましたが、最終的に整形外科を選択した理由は、一言で言って楽しかったからです。骨折手術で元通り歩けるようになった、人工関節で痛みなく歩けるようになった、靭帯再建でスポーツに復帰した、など整形外科の手術は患者さんの生活と人生を一変させる力があり、また、手術の結果が目に見えて分かるのが魅力です。中でも、私は関節リウマチを専門として手術と薬物治療を行っています。人工関節の楽しさに加えて、適切な薬物治療で患者さんが元気になるのが本当に楽しくて選びました。研究は変形性関節症の新規薬物治療開発を目指して関節軟骨の変性メカニズム解析を米国留学から継続しています。患者数が非常に多く、研究結果が多くの患者さんに益するよう地道に進めていきたいと思っています。色々な選択肢を選びながら今の仕事までたどり着きましたが、どれも一生楽しめるものばかりで幸せです。みんな整形外科を選べばいいのに、と結構本気で思っています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

「Life is motion」生きることは動くこと、これが整形外科の理念そのものです。若い患者さんから年配の患者さんまで、自分で生きる力を最後まで持ち続けるサポートを整形外科医は行っています。自分の治療で患者さんを笑顔にすることができる、とてもやりがいのある仕事です。整形外科は力仕事で男の職場というイメージがあるかもしれませんが、色々な分野があり守備範囲が広いので、どんな人でも楽しく仕事ができる診療科です。是非一度医局に遊びに来てみてください。整形外科の魅力について語り合いたいです。



学会参加中の一コマ
グランドキャニオンにて



リハビリテーション医学講座・教授

おがわ たかひろ
尾川 貴洋

— 教授就任に当たっての
抱負を聞かせてください。—

昨今リハビリテーション医療の社会的重要性が増していることを踏まえ、本診療科では、疾病や外傷で低下した身体的・精神的機能を回復させ障害を克服するという考えだけでなく、ヒトの営みの基本である活動に着目しながら、「患者さんの全身を診て人生をサポートするリハビリテーション医療」を提供致します。リハビリテーション治療は、超急性期から積極的に介入することで最大限の回復に寄与できると考えています。

本診療科は、集中治療部門と連携しICUにおける運動療法や早期離床へ向けたリハビリテーション治療なども実施していきます。一方で、回復期や生活期の医療を支える地域の医療スタッフと連携を深め、シームレスなりハビリテーション医療の提供を構築していきます。また、地域を担う中核病院として重要な本学分院であるメディカルセンターにおいても、積極的なリハビリテーション治療を展開致します。

加えて、患者さんの全身を診て人生をサポートするリハビリテーション医療を、未来を担う学生やリハビリテーション科医師・療法士に伝えるだけでなく、探究すべく研究を行い、本学リハビリテーション医学講座の発展に尽力したいと思います。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

研究しながらも診療に没頭する日々の中で、「患者さん第一」と考えながら臨床に取り組んでいると、様々な場面で悩むことがあります。膝が悪いから膝だけをみた訓練を目の当たりにした時、なぜ他のリ

ハビリテーション治療を取り入れないのかと頭を悩ませることがありました。その時、全身を診るリハビリテーション治療を広く伝える重要性を実感しました。悪い箇所だけを見る、部位別リハビリテーション治療からの脱却を目指す一方で、運動療法を施すか否かの判断の難しさに思い悩む日々でした。そんな中で気づいたことは、教育と研究の意義深さでした。リハビリテーション科医師や療法士を育成し、研究を行うことが困っている患者さんに良質な医療を提供できる手段であると理解しました。

かつて、沖縄にある療法士数150名にも及ぶ「ちゅうざん病院（リハビリテーション専門病院）」で院長を勤めた際、私は教育回診を開始し、研究を担う機関として「ちゅうざん病院臨床教育研究センター」を立ち上げました。「患者さん第一」の思いが、スタッフの教育や研究促進へと変化し、このことが今の立場になるきっかけになったと思っています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

他の医療もそうであるように、リハビリテーション医学・医療は、患者さんの人生を大きく変える力があります。私はよく「どんな医療者になりたいと思ってこの道へ来たのか？」と質問します。多くの方は「人の役に立つ医療者」と答えますが、人は得てして、本来目指した方向から逸れることがあります。私が学生の皆さんにお願いしたいことは、常に自分の描いた未来へ続く道に身を置き、人の役に立つ仕事として誇りを持ち、絶えずその医療者像を追求して欲しいということです。そして、医療の仕事は、患者さんの人生を良くも悪くも大きく変え得る可能性を秘めている。だからこそ「患者さんを第一に考える」医療者が、皆さんの未来の医療者像であって欲しいと思います。



全身を診るって難しい



周産期母子医療センター・教授

やま だ やす ま さ
山 田 恭 聖

— 教授就任に当たっての
抱負を聞かせてください。—

令和4年11月1日付で周産期母子医療センターの教授を拜命致しました。どうぞよろしく申し上げます。

新生児の治療ケアには、NICUの医師や看護師だけでなく、関連他科スタッフ、そして、ご家族の協働が必要不可欠です。お互いを尊重し、対等な立場で、ご家族とともにケアプランを決めていく。これこそが、チーム医療「対等と尊重の協働」の本質と考えます。この真のチーム医療の実践を通して人材の獲得・育成に注力して参ります。

実習においては学生にも、この「対等と尊重の協働」の一員として参画してもらい、将来のチーム医療におけるリーダーとなる人材を養成していきます。

私自身、本学に10年以上教員として在籍し、諸先生方や職員の皆さまに育てていただいたこと大変感謝しており、「愛知医大愛」を持って恩返しすることを切望しております。本学周産期母子医療センターが地域を代表する施設になるよう、誠心誠意貢献していく所存です。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

私の専門は新生児医療です。平成6年に医学部を卒業した当時は、新生児医療は比較的新しい医療で、私にはキラキラととても新鮮に映りました。全身を診る医療に興味があった私は、ご家族を含めたチーム医療を実践している、新生児集中治療室（NICU）に感銘を受け、小児科学教室に入局しました。以来、私はNICUは以下であるべきという理念のもと、診療・研究・教育に邁進して参りました。

- ・赤ちゃんが安らげるNICU（家族に近いNICU）
- ・家族が安らげるNICU（安心できるNICU）
- ・スタッフが安らげるNICU（開かれたNICU）

今後も引き続き、生まれてきた全ての赤ちゃんが、「生まれてきて良かった」と思える「健やかな発達」や「健康管理」に診療・研究・教育を通じて、お力添えして参りたいと思います。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

学生臨床実習の期間内には、全ての学生と話すようにしています。医学教育だけでなく、将来のキャリアプラン（人生相談、恋愛相談(苦手)など）の相談も受け付けています。コロナ禍以前は、多くの学生から懇親会の誘いを受け積極的に参加してきました。小児科、新生児科に進むつもりのない学生も大歓迎ですので、コロナが明けたら懇親会に行きましょう。NICUで企画する趣味のサークル（バンド活動、キャンプ、スポーツなど）への参加も可能です。また、学生でも新生児蘇生法のインストラクターを目指すことができます。気軽に声を掛けてください。連絡先：yamasan@aichi-med-u.ac.jp



多職種協働バンド「ヤマダオールスターズ」
ライブの様子



脊椎脊髄センター・教授

はら まさひと
原 政人

— 教授就任に当たっての
抱負を聞かせてください。—

平成31年4月に脊椎脊髄センター特任教授として赴任し、令和4年11月1日付で同センターの教授に就任しました。脊椎の手術と言うと整形外科医が主に行っているという印象を持たれていることと思います。しかし、脊椎脊髄疾患の多くは神経症状を伴うものです。脊椎は運動器ではありますが、私たち神経のスペシャリストである“脳”神経外科医がもっと関与するべきです。中部地区においては、多くの神経外科医が脊椎脊髄の手術を行っています。

脊髄は脳、末梢神経と繋がっているため、異なる部位の障害でも同じような症状をきたすことがあります。術後に症状が良くならないfailed back/neck surgery syndromeがありますが、この原因の一つとして、この障害部位の診断能力の問題があります。私は、後進がより良い外科医になるために、確実な高位診断能力の獲得と、低侵襲で確実な手術技術を習得できるように指導を行い、更には本学の発展に寄与できるように努めます。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

私は神経に興味を持っていたため、卒後1年で脳神経外科に進みました。初めて脳出血の手術を執刀した患者さんが両下肢麻痺で受診され、胸椎の脊椎カリエスと診断。しかし、脊椎脊髄疾患は整形外科の担当になっており、自分で何もできないもどかしさがありました。手術の日には完全麻痺となってしまい、術後も改善はみられず、悔しい思いをしました。その時以来、自分で手術ができればと強く思うようになり、脊椎手術ができる病院にて研鑽を積みました。名古屋大学ではラット脊髄損傷モデルでの基礎研究も行い、脊髄に更にのめり込んでいきました。その後、技術が向上したにもかかわらず術後成績不良例を経験し、神経全般、取り分け、末梢神経絞扼障害を考慮しなければならないことに気付き、今に至っています。まだ治療法が確立していない末梢神経疾患（特に下肢）も多く、解決を目指しています。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

仕事は、人生においてかなりの比率を占めます。技術力があれば、仕事を続けることができ、継続により能力も向上し、人生が豊かになります。脊椎変性疾患、末梢神経絞扼障害は加齢が関与します。高齢者人口は2050年くらいまで増加しますので、手術症例もしばらく増加します。多くの症例を経験できるため、技術力を磨くには非常に良い分野です。確実な神経減圧により神経症状の改善が得られるため感謝もされ、モチベーションに繋がります。「手に職」をつける脊椎脊髄外科。是非考えてみてください。



医局員とのひととき

令和5年度学年暦のご紹介

令和5年度の医学部及び看護学部の主な学年暦を紹介します。

| 医 学 部 | |
|---------------|-------------------------------|
| 4月2日 | 入学式 |
| 4月3日 | 5・6学年次前学期授業開始 新入生ガイダンス |
| 4月4日・4月5日 | 新入生研修 |
| 4月6日・4月7日 | 新入生ガイダンス |
| 4月7日 | 2・3学年次学生定期健康診断 |
| 4月10日 | 1～4学年次前学期授業開始 |
| 4月14日 | 1・4学年次学生定期健康診断 |
| 5月2日 | 5・6学年次総合試験A 5・6学年次学生定期健康診断 |
| 5月15日 | 解剖慰霊祭 |
| 5月15日～5月19日 | 1学年次早期体験実習1a (シミュレーション実習) |
| 5月29日～6月2日 | 1学年次早期体験実習1b (看護体験実習) |
| 7月7日～7月11日 | 4学年次定期試験 |
| 7月15日 | 6学年次共用試験Post-CC OSCE |
| 7月18日～7月20日 | 3学年次定期試験 |
| 7月18日～7月21日 | 2学年次定期試験 |
| 7月18日～7月24日 | 4学年次地域医療早期体験実習 |
| 7月18日～8月20日 | 5学年次夏季休業 |
| 7月18日～9月3日 | 6学年次夏季休業 |
| 7月24日～7月28日 | 1学年次定期試験 2学年次外来案内実習 |
| 7月25日～8月18日 | 4学年次夏季休業 |
| 7月31日～8月27日 | 1～3学年次夏季休業 |
| 8月24日 | 4学年次共用試験CBT |
| 8月28日 | 1～3学年次後学期授業開始 |
| 9月2日・9月3日 | 4学年次共用試験Pre-CC OSCE |
| 9月4日～9月15日 | 3学年次地域包括ケア実習 |
| 10月2日 | 4学年次後学期授業開始 |
| 10月9日 | 6学年次後学期授業開始 |
| 10月12日 | 5学年次後学期授業開始 |
| 10月12日・10月13日 | 5・6学年次総合試験B |
| 10月14日 | 4学年次白衣式 |
| 10月19日 | 1～3学年次防災訓練 |
| 10月23日～10月27日 | 1学年次早期体験実習1c (臨床科見学実習) |
| 11月3日・11月4日 | 医大祭 |
| 12月11日～12月15日 | 2学年次定期試験 |
| 12月18日～12月22日 | 1学年次定期試験 |
| 12月18日～1月3日 | 6学年次冬季休業 |
| 12月19日・12月20日 | 3学年次定期試験 |
| 12月22日～1月7日 | 2学年次冬季休業 |
| 12月25日～1月7日 | 1・3～5学年次冬季休業 |
| 1月9日～1月12日 | 2学年次定期試験 |
| 1月15日～1月24日 | 2学年次チーム医療実習 |
| 1月19日～1月22日 | 1学年次定期試験 |
| 1月20日 | 4・5学年次総合試験C |
| 1月25日・1月26日 | 1学年次定期試験 |
| 1月25日～1月31日 | 2学年次地域社会医学実習 |
| 2月13日～3月31日 | 1・2学年次春季休業 |
| 2月15日～3月31日 | 3学年次春季休業 |
| 3月2日 | 卒業証書・学位記授与式 |
| 3月4日～3月31日 | 6学年次春季休業 |
| 3月18日～3月31日 | 4・5学年次春季休業 |

| 看 護 学 部 | |
|-------------|----------------|
| 4月2日 | 入学式 |
| 4月3日～4月7日 | 新入生ガイダンス・新入生研修 |
| 4月5日 | 2～4学年次前学期授業開始 |
| 4月7日 | 1・4学年次学生定期健康診断 |
| 4月10日 | 1学年次前学期授業開始 |
| 4月14日 | 2・3学年次学生定期健康診断 |
| 5月2日 | 4学年次定期試験 |
| 6月10日 | 2学年次キャンドルセレモニー |
| 6月20日～6月23日 | 2学年次定期試験 |
| 6月26日～6月28日 | 3学年次定期試験 |
| 7月24日～9月10日 | 4学年次夏季休業 |
| 7月31日～8月4日 | 1学年次定期試験 |
| 7月31日～8月31日 | 3学年次夏季休業 |
| 8月7日～8月22日 | 2学年次夏季休業 |
| 8月7日～9月11日 | 1学年次夏季休業 |
| 8月23日 | 2学年次後学期授業開始 |
| 9月1日 | 3学年次後学期授業開始 |
| 9月11日 | 4学年次後学期授業開始 |
| 9月12日 | 1学年次後学期授業開始 |
| 10月19日 | 総合防災訓練 |
| 11月3日・11月4日 | 医大祭 |
| 12月18日～1月3日 | 1・2学年次冬季休業 |
| 12月25日～1月3日 | 3学年次冬季休業 |
| 12月26日～1月3日 | 4学年次冬季休業 |
| 1月15日～1月19日 | 2学年次定期試験 |
| 1月22日～1月29日 | 1学年次定期試験 |
| 1月22日～3月31日 | 2学年次春季休業 |
| 1月30日～3月31日 | 1学年次春季休業 |
| 1月31日～2月2日 | 3学年次定期試験 |
| 2月5日～3月31日 | 3学年次春季休業 |
| 3月2日 | 卒業証書・学位記授与式 |
| 3月4日～3月31日 | 4学年次春季休業 |

令和5年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部、看護学部、大学院の入試が行われています。いずれの試験においても、受験生の合格への意気込みが感じられました。

《医学部》

●学校推薦型選抜

＜公募制＞

- ①試験日 令和4年11月26日(土)
- ②志願者数 79名
- ③受験者数 77名
- ④合格者発表 令和4年12月8日(木)
- ⑤合格者数 20名

●国際バカロレア選抜

- ①試験日 令和4年11月26日(土)
- ②志願者数 5名
- ③受験者数 5名
- ④合格者発表 令和4年12月8日(木)
- ⑤合格者数 2名

●一般選抜

＜第1次試験＞

- ①試験日 令和5年1月24日(火)
- ②志願者数 1,392名
- ③受験者数 1,327名
- ④第2次試験受験資格者発表
令和5年1月30日(月)
- ⑤第2次試験受験資格者数
402名

＜第2次試験＞

- ①試験日 令和5年2月2日(木)・3日(金)
- ②合格者発表 令和5年2月9日(木)

●大学入学共通テスト利用選抜

＜前期＞

＜第1次試験＞

- ①試験日 令和5年1月14日(土)・15日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和5年2月9日(木)

＜第2次試験＞

- ①試験日 令和5年2月16日(木)
- ②合格者発表 令和5年2月24日(金)

＜後期＞

＜第1次試験＞

- ①試験日 令和5年1月14日(土)・15日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和5年3月6日(月)

＜第2次試験＞

- ①試験日 令和5年3月10日(金)
- ②合格者発表 令和5年3月16日(木)

●学校推薦型選抜＜愛知県地域特別枠A方式＞

- ①試験日 令和4年11月26日(土)
- ②志願者数 12名
- ③受験者数 12名
- ④合格者発表 令和4年12月8日(木)
- ⑤合格者数 4名

●大学入学共通テスト利用選抜＜愛知県地域特別枠B方式＞

＜第1次試験＞

- ①試験日 令和5年1月14日(土)・15日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
令和5年3月6日(月)

＜第2次試験＞

- ①試験日 令和5年3月10日(金)
- ②合格者発表 令和5年3月16日(木)

《看護学部》

●学校推薦型選抜

<指定校制>

- ①試験日 令和4年11月12日(土)
- ②志願者数 17名
- ③受験者数 17名
- ④合格者発表 令和4年11月22日(火)
- ⑤合格者数 17名

<公募制>

- ①試験日 令和4年11月12日(土)
- ②志願者数 36名
- ③受験者数 36名
- ④合格者発表 令和4年11月22日(火)
- ⑤合格者数 15名

●社会人等特別選抜

- ①試験日 令和4年11月12日(土)
- ②志願者数 3名
- ③受験者数 2名
- ④合格者発表 令和4年11月22日(火)
- ⑤合格者数 1名

●一般選抜

- ①試験日 令和5年1月29日(日)
- ②志願者数 421名
- ③受験者数 416名
- ④合格者発表 令和5年2月8日(水)

●大学入学共通テスト利用選抜(A方式・B方式)

- ①試験日 令和5年1月14日(土)・15日(日)
- ②合格者発表 A方式・B方式:令和5年2月15日(水)

《大学院医学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
基礎医学系, 臨床医学系各専攻合わせて19名
- 2 出願期間
令和4年12月1日(木)から
令和4年12月15日(木)まで【必着】
- 3 入学者選考方法
入学者は, 学力試験及び出身大学の調査書を総合して選考する。
①試験日 令和5年1月27日(金)
②試験項目及び時間

| 時間 | 試験項目 |
|---------------------|--|
| 10:00) 12:00 | 外国語(英語) 〔辞書使用可, 電子辞書不可〕 ※ 外国人志願者の外国語試験は, 英語一カ国語のみによる試験又は 英語と日本語の二カ国語による試 験のいずれかを選択する。 |
| 13:00) | 面接試問(志望する専攻分野に関連 する専門試験を含む) |

- 4 合格者発表
令和5年2月28日(火)
- 5 入学手続期間
令和5年3月1日(水)から
令和5年3月8日(水)まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学医学部教務課大学院係

《大学院看護学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
母性看護学, 慢性看護学, 精神看護学, 在宅
看護学及び地域看護学の各領域合わせて若干名
- 2 出願期間
令和5年1月5日(木)から
令和5年1月16日(月)まで【消印有効】
- 3 入学者選考方法
入学者の選抜は, 学力試験, 小論文, 面接及
び出願書類等を総合して判定する。
①試験日 令和5年2月2日(木)
②試験科目及び時間等

| 時間 | 試験科目等 |
|-------------|---------|
| 9:00~10:30 | 小論文 |
| 10:45~12:15 | 専門科目(※) |
| 13:15~ | 面接 |

※専門科目の出題について

- ・修士論文コース: 志願する専攻領域
- 4 合格者発表
令和5年2月8日(水)正午ごろ
- 5 入学手続期間
令和5年2月9日(木)から
令和5年2月15日(水)まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学看護学部教学課大学院係

医学部後援会・医学部互助会への名称変更

「医学部父兄後援会・父兄互助会」は、昭和47年に設立され今年で50年になります。令和4年5月の総会で「多様な家庭がある中、父兄はそぐわない。」との意見が多数寄せられました。そこで、他大学の名称を調べたところ、「父兄」の名称はごく少数校になっていました。

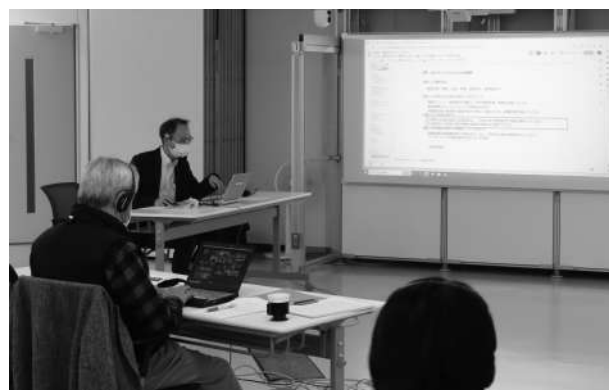
名称変更の手続きとして、会員全員による意向投票を実施し、次に、臨時総会を経て「医学部後援会・医学部互助会」の承認が得られました。新名称の施行日は、令和4年11月1日としました。会員の皆さまのご協力に感謝申し上げます。

医学教育者のためのワークショップ開催 「ICTを活用した新たな教育を目指して」

今年度の医学教育者のためのワークショップ（学内ワークショップ）は、令和4年12月16日（金）・17日（土）に開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度に引き続きZoomを使用したWeb開催となりました。テーマは「ICTを活用した新たな教育を目指して」として、新たに赴任・昇任した教員を中心に幅広く参加者を募り、15名の先生方に参加いただきました。

本ワークショップの目的は、本学の医学教育の目標を再認識し、建学の精神を基に、どのような医学教育がこのコロナ禍に必要とされているのかを議論することです。今回は、外部講師として名古屋大学消化器外科・卒後臨床研修キャリア形成支援センターの高見秀樹先生をお招きし、新しいコア・カリキュラムについての概説、今後、新たに必要となる科目について議論がなされました。他にも、四つのグループワーク「現在の愛知医科大学の教育の課題（早稲田勝久教授：医学教育センター）」、「卒業時に修得しておくべき臨床能力とマイルストーン（佐藤麻紀講師：医学部IR室）」、「ジョイントセッションの構築（神谷英紀教授：内科学講座(糖尿病内科)）」、「上手い教育のための七つのポイント（伴信太郎特命教育教授：医学教育センター）」が行われました。

また、情報共有として「AIDLE-Kの使い方（橋本貴宏准教授：数学）」、「シミュレーションセンター



ワークショップ参加者

の活用（船木淳講師：シミュレーションセンター）」、「コロナ禍の学生像（宮本淳准教授：心理学）」、「学修支援の現状（河合聖子講師：医学教育センター）」についての講演がありました。

振り返りでは、基礎医学と臨床医学の枠を越えた意見交換や、他診療科の先生の意見や考え方を知ることができて有意義であったとの感想が多くありました。ご協力いただきました皆さまに深く感謝申し上げます。

令和4年度医学部FD講演会開催

令和5年1月11日（水）午後5時30分から大学本館303講義室において、令和4年度第4回医学部FD（ファカルティ・ディベロップメント）講演会がハイブリッド開催されました。自治医科大学の松山泰先生を講師にお招きし、「アウトカム基盤型教育時代の学修者評価」をテーマとした講演会には、対面・Webを併せて128名が参加しました。

講演では、評価方法の変遷、現在実施されている様々な評価方法の特徴などを説明していただき、妥当で信頼できる評価を行うために必要な考え方を教えていただきました。また、近年、臨床実習の充実が求められていますが、実習における観察評価は、時として手間がかかり、難しいと感じることがあります。松山先生からは、「良い教育的影響があれば、評価に手間をかける対価がある。つまり、評価行為自体が教育である。」というお話がありました。

最後に、自治医科大学の国家試験全員合格には、



講演を行う松山先生

教員の多大な努力によって成し遂げられていることが紹介されました。評価は、学修者の学修のモチベーションとも密接に関係するため、適切に行うことが求められます。そして、適切な評価が行われることで、学生の学修へのモチベーションアップに繋がることを期待します。

今後も様々なテーマでFDを実施する予定ですので、皆さまのご参加をお待ちしています。

医師国家試験CBTトライアル試験実施

令和4年11月16日（水）に医師国家試験CBT（computer based testing）トライアル試験が実施されました。現在、医師国家試験のCBT化について検討が進められており、厚生労働科学研究「医師国家試験CBT化に向けた研究」に、本学は昨年引き続き協力し、参加しました。

試験は、大学本館5階マルチメディア教室で午前9時から午後3時まで実施されました。医学部の5、6学年次生を対象に受験希望者を募り、5学年次生55名、6学年次生15名が受験しました。受験後の学生アンケートでは、「今まで以上に多くの身体診察を経験

することが必要だと思った。」、「シミュレータ等を使用した心肺の聴診の練習が必要と感じた。」、「4学年次のOSCEでの身体診察は形式しか学ばないので、指導医との回診などで、身体診察のフィードバックが欲しい。」といった意見がありました。

CBT化後の医師国家試験では、より実践に則した、実臨床に近い形式の問題が多く出題され、ますます臨床実習の重要性が高まってくると考えられます。本学はトライアル初年度から参加しており、この経験を今度のカリキュラム改革・授業内容の改善に繋げ、国家試験のCBT化に備えていきます。

篤志解剖全国連合会 第39回献体実務担当者研修会開催

令和4年11月18日（金）午後2時から午後6時30分まで、大学本館たちばなホールにおいて、篤志解剖全国連合会（全連）主催の第39回献体実務担当者研修会（実担）が「献体実務のリスク管理」をテーマに開催されました。

全連は、全国の医学部歯学部のある大学と各大学に関係する献体団体で組織され、昭和51年から献体運動に関連する各種会合を開催しています。

更には、文部科学大臣の感謝状贈呈（昭和57年）及び献体法の施行（昭和58年）を契機に献体に係わる実務業務が複雑化したことを考慮して、昭和59年から各団体・大学における献体業務の実務担当者が問題点を指摘し相互の情報交換を行う場としての実担を毎年開催しており、今回で39回目になります。

当日は、篤志解剖全国連合会の八木沼洋行会長（福島県立医科大学教授）の開会あいさつ及び成願者への黙祷の後、司会進行は天野修副会長（明海大学歯学部教授）、佐藤二美事務局長（東邦大学医学部教授）により行われました。また、開催校を代表して本学解剖学講座の内藤宗和教授から本学紹介を含むあいさつがありました。続いて、天野副会長から各大学担当者に実施した事前アンケートの結果報告があ

り、それを話題に少人数に分かれたグループでのワークショップが実施されました。これは、研修会で初めての実施となります。

休憩後、グループ討論内容をまとめた発表と全体討論がなされ、八木沼会長の総括がありました。最後に、次回開催校である金沢大学医学部の尾崎紀之教授から金沢の見どころや大学の紹介、西真弓常任理事（奈良県立医科大学教授）の閉会あいさつにより研修会が終了しました。

従来、研修会終了後には軽食が用意された親睦が深まる懇談会が行われていましたが、今回、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため飲食を伴わない意見交換会となり、本学立石プラザ3階の交流ラウンジにおいて行われました。そのため、参加者には本学のグッズである手提袋、ボールペン及びペットボトル水や、名古屋名物である地雷也の天むすが配布されました。

対面での研修会は3年ぶりの開催となり、ワークショップや交流ラウンジでも活発な討論がなされ、参加者からは「有意義な意見交換ができた。」と好評な研修会となりました。



研修会会場



開催校あいさつを行う内藤教授



ワークショップの様子

地域イベントに学生ボランティアサークルHIAMUが参加

令和4年11月5日（土）に、瀬戸市・尾張旭市近郊の医療ケアを必要とする子どもと家族が楽しめるイベント「第9回もーやっこジュニアの広場」が瀬戸蔵で開催され、本学の学生ボランティアサークルHIAMUが参加しました。

このイベントは、瀬戸旭医師会を始め、瀬戸市の終訪問看護ステーション及び近隣等の在宅ケア事業所、本学の学生ボランティアサークルHIAMUや中部大学生が中心となって、普段外出が難しい医療が必要な子どもたちやその家族と一緒に楽しみを分かち合える場を作り、小児の在宅医療ケアを学ぶ機会を設けることを目的としてスタートし、今回で9回目の開催となりました。

本学からは、地域・在宅看護学の佐々木裕子准教授を始め、HIAMUの学生2名が事前準備に、そして3名が運営スタッフとして参加しました。子どもたちやその家族に楽しんでもらうことができるように意見やアイデアを出し合い、イベントの準備を進めてきました。今回は、子どもたちや兄弟姉妹が楽しめる魚釣りゲーム、車椅子の子も遊べる的当てゲーム、三つの難易度に分けた謎解きゲームなどのイベントを学生が中心となって運営しました。

HIAMUの代表を務める医学部6学年次生の中村文香さんからは、「昨年と異なり今年是对面イベントでしたので、子どもたちが楽しそうに遊んでいたりと、医療ケアが必要なお子さんがイベントを通じてお友達やご家族の方と交流されていたりするのを直



的当てゲームの様子



魚釣りゲームの様子

接体験することができました。そのため、昨年以上に嬉しさが胸がいっぱいになったと同時に、直接交流することのできる環境の大切さを改めて実感致しました。こうした機会を与えてくださった関係者の皆さまに、心から感謝するとともに、今回の経験を臨床の場でも活かすことができればと思います。」との感想がありました。

オンライン医療英語実習コース体験記

本学医学部では新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、学術国際交流協定大学等との学生の交換留学が中止になったことを受け、昨年度からオンラインで学修する医療英語実習コースを実施しています。本コースは、英国レスター大学の教員を講師に迎え、OSCEの中でも医療面接に焦点を当て、英語による医療面接のノウハウをオンラインで学ぶことができます。

令和4年11月7日（月）を初日として2週間にわたり6日間行われ、10名の学生が参加しました。このコースを終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

医学部1 学年次生 齋藤 壮人

実習は前学期で行った医療面接の延長線であったので取り組みやすく、実践も交えて行ったので、将来臨床の場でどのようなことを聞くべきなのかを体感できたことは大変意義があったと感じます。また、授業の最中でブレイクアウトルームを用いたグループワークを行います。そこでは学年の垣根を越えて話し合うことができ、とても勉強になったと思います。

授業は全て英語であり、しかも、かなりハイテンポで学んでいくため、それについていき課題をこなすことは難易度が高かったのですが、おかげでかなりリスニング能力やスピーキング能力が鍛えられました。よって、この実習は臨床への心構えと英語力の両方を育てられたという点で参加して良かったと感じました。

医学部3 学年次生 片桐 麻衣

私は本学にバカロレア入試で入学しましたが、今回は初めてオンライン医療英語実習コースに参加しました。高校時代では、バカロレアコースで様々な授業を英語で習ってきましたが、このコースのような医療英語に触れたことはあまりなかったため、新たな試みとなり、英語が元々好きな私にとって、医療英語の知識の習得ができることを嬉しく感じまし



講師のMegan Murray氏

た。英語力があっても、患者さんの問診で使える英語のフレーズや言い回しを習うことはとても勉強になりました。また、医療面接は、来年度に実施されるOSCEの試験の予習にもなり良い経験になったと感じています。

医学部4 学年次生 松原 秀平

今回のプログラムでは、主に英語での医療面接の実践を経験しました。参加動機は、将来英国で臨床を行っていくことを目標としているためです。IMG (International Medical Graduate) が英国医師免許の取得を目指す際に受験するPLAB (Professional and Linguistic Assessments Board) テストでは医療面接がその内容として含まれており、今回の公募を見て是非とも参加したいと思いました。

実際にプログラムに参加して、大卒としては日本で経験するOSCEと類似していたこともあり、比較的スムーズにプログラムに入っていくことができました。一方で、患者の病状を把握していくその先の能力として、現地の文化や生活観、宗教観などに由来する社会的背景の読み取りについては、今後課題を残したと感じています。自宅で気軽に英国のプログラムを受講できたことは非常に有意義で、これからの自身の挑戦に向けた足がかりにしていきたいと考えています。

令和4年度大学院医学研究科FD特別講義開催

本学では、平成28年度から大学院医学研究科FD（ファカルティ・ディベロップメント）特別講義が毎年開催され、今年度も2回行われました。

第1回目は、令和4年11月24日（木）大学本館301講義室において開催され、宮崎大学医学部看護学科統合臨床看護科学講座教授の柳田俊彦氏を講師としてお招きし、「基礎医学におけるロールプレイの導入」をテーマとして、ご講演いただきました。

第2回目は、令和5年1月12日（木）大学本館301講義室において開催され、医療法人常念会介護

老人保健施設みのり施設長（元生理学研究所所長・元総合研究大学院大学学長）の岡田泰伸氏を講師としてお招きし、「学術研究危機の中で必要とされる医学研究・教育」をテーマとして、ご講演いただきました。

当日は、大学院医学研究科の多くの担当教員が参加し、今後の研究・教育の質の向上に繋がるものとなりました。医学研究科では、引き続きFDを実施することで、更に授業内容・方法を改善し、向上させて参ります。

看護学部就職支援講座開催

令和4年11月15日（火）及び令和5年1月23日（月）の2日間にわたり、両日C棟201講義室において「看護学部就職支援講座」が開催されました。

11月15日は3学年次生を対象として開催され、看護学部学生委員会の山中真委員長からのあいさつから始まり、次いで、マイナビ講師から履歴書の役割や基本項目の書き方、自己PRと志望動機の考え方などについてお話しいただきました。

実施後に行ったアンケートでは、「履歴書の書き方で注意しなければならない点が明確になり、具体的にイメージすることに繋がった。」「履歴書を書く際の重要なポイントについて知ることができて良かった。」などの意見が寄せられました。

1月23日は2学年次生を対象として開催され、看護学部学生委員会の横山剛志委員からのあいさつから始まり、次いで、ナース専科講師から看護職の就職活動・就職試験についての現状、就職説明会・インターンシップなど、就職活動の様々な場面で必要なマナーについてお話しいただきました。また、講座の中では、お辞儀や着席の仕方など基本的な所作を実践しながら確認しました。

実施後に行ったアンケートでは、「就活に早めに取り組んで、しっかりと病院を選び、自分磨きを考えることが大切だと思った。」「立ち方、お辞儀の



マイナビ講師による講義の様子



基本的な所作を説明するナース専科講師

仕方など就職活動ではもちろんですが、実習でも大切だと思ったので、早速来年度の実習から実践していきたい。」などの意見が寄せられました。

就職試験に臨む学生にとって、十分な心構えと対策を講じるための貴重な講座となりました。

看護学部進路懇談会開催

令和4年12月20日（火）午前9時から、C棟201講義室において3学年次生を対象に「看護学部進路懇談会」が開催されました。

この企画は、履歴書書き方講座応用編、卒業生による体験談発表、懇談会で構成しており、卒業生による体験談発表では、看護師、保健師、助産師として活躍する卒業生4名から「就職・進学先を決定した動機やエピソード、現在の看護実践の状況、仕事を含めた生活等」についてリレー方式でお話しいただきました。

懇談会では、卒業生に職種別の懇談室へ移動していただき、3学年次生は自分が希望する職種の卒業生から様々なアドバイスを受けることができました。



体験談発表の様子

開催後に行ったアンケートでは、「先輩からのお話を聞くことができたため、とても役に立った。」「普段聞きにくい質問を卒業生の方から実際の体験として聞くことができたのが良かった。」などの意見が寄せられました。

看護学部体験入学開催

令和4年12月23日（金）看護学部実習室において「看護学部体験入学」が開催されました。本企画は、高校生が看護学部における講義を体験することにより、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めていただくことを目的として開催しています。

当日は、22名の高校生が参加し、地域・在宅看護学の坂本真理子教授による体験授業「国際看護って何だろう？世界の人々の健康を守る看護」及び体験演習「世界の人々の健康に思いをはせよう」が行われました。体験演習では、医療施設が乏しい地域で健康を守るための解決策や優先事項についてグループで話し合いが行われ、限られた時間の中で、多くの意見が挙がりました。続いて、アシスタントを務める看護学部生と一緒にドクターヘリ及びドクターカーを見学し、交流会が行われました。

参加した高校生からは、「グループワークで様々なことを議論する講義と演習がとても楽しかった。



高校生が取り組む体験演習

た。」「ドクターヘリやドクターカーの見学ができて嬉しかった。フライトナースの話聞いて、これから頑張ろうと思えた。」「学生の方々が色々教えてくださって、大学に進学することへの不安が少し減りました。」などの感想が寄せられ、参加した高校生にとっては、看護学の一端を学ぶ有意義な体験入学となりました。

看護実践研究センター キャリア支援部門 セミナー及び学習会開催

中堅看護師セミナー

令和4年11月26日（土）午後1時30分から、一宮研伸大学看護学部基礎看護学の鈴江智恵教授（元春日井市民病院看護部長）を講師にお招きし、中堅看護師セミナー「中堅看護師に必要なリーダーシップとコーチング」が開催されました。セミナーはオンラインで開催され、74名の参加がありました。

中堅看護師とは、経験年数10年前後の看護師を指し、その場に応じた知識・技術・能力が発揮できる者とされ、チーム内の看護に責任を持ちリーダーシップを発揮することが求められています。鈴江講師からは、多数あるリーダーシップ理論の変遷とその特徴、持論を理論で補い自分らしいリーダーシップスタイルを築くこと、経験を振り返ることの積み重ねが自分らしいリーダーシップに繋がること等が、ご自身の経験も踏まえて分かりやすく示されました。更に、リーダーシップの発揮に必要なコーチングスキルについても、具体的にご説明いただきました。

参加者からは、「色々なリーダーシップ理論やコーチングについて知ることができました。」「自分ら



オンライン講義を行う鈴江講師

しいリーダーシップを育てることが大切。」「リーダーシップの具体的な行動を示してもらい、明日から活用してみようと思いました。」などの感想が寄せられました。リーダーシップの基本からリーダーシップを発揮するためのコーチングスキルまで学ぶことで、自分らしいリーダーシップについて考えるきっかけとなり、理論と実践を結び付け、現場で活用できるセミナーとなりました。

臨床倫理学習会

令和4年12月10日（土）午後1時から、臨床倫理学習会「看護倫理A TO Z～基礎からコロナ時代の実践まで～」がオンラインにて開催されました。

東海・北陸地方を中心とした病院から37名の参加があり、始めに、本学看護学研究科の佐藤ゆか教授から看護倫理の基本について説明があり、続いて、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院看護部家族支援専門看護師の永富美知子講師から、倫理カンファレンスなどについて家族支援CNSとしての倫理調整の実践について説明がありました。更に、本院NICU・GCU新生児集中ケア認定看護師の竹島雅子看護師長からは、コロナ禍のNICUでの困難な事例への対応について紹介がありました。看護理論の基本を学んだ上で、高度実践看護師や看護管理者として対応した倫理調整の事例を提示していただき、最後に3名の講師と意見交換が行われ、実際の倫理調整の場面を想起しやすい講義となりました。

参加者からは、「基本的な内容、事例を通しての講義でとても分かりやすかった。」「現場で活かせる内容やヒントがあった。」等の感想が寄せられました。また、経験豊富な看護職者の参加が多かったため、管理者・指導者としての視点から、「倫理へ



左から竹島看護師長、永富講師、佐藤教授

の取っつきにくさを看護師は感じているが、この講演を病院の看護師に聞いてもらえたら、もう少し倫理への抵抗が低くなると感じるぐらい素晴らしい内容でした。」「現場で葛藤を抱えているのは自分だけではないと気付くことができ、心が楽になった。」という感想も寄せられ、看護倫理の基本を改めて理解するとともに、平時においても難しい倫理という問題について、コロナ時代において苦慮されている看護職の方々の活力となり、すぐに実践で活用できる学習会となりました。

看護学研究科特別講義開催

令和4年12月17日（土）午後1時30分から、大学本館302講義室において、岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科看護学領域の原田奈穂子教授【写真】を講師にお招きし、「全ての災害の影響を受けた人びとと看護職者を守るスフィアスタンダード」のテーマで、ハイブリッド形式による大学院看護学研究科特別講義が開催されました。

スフィアスタンダードとは、人道支援の現場で支援者が守るべき最低基準であり、災害大国の日本において医療者に必要な知識です。また、災害時には看護職者も災害の影響を受ける一人であり、全ての災害の影響を受けた人々と看護職者を守る視点についてお話しいただきました。

参加者からは、「医療者が被災者に対し、どのような根拠で支援をすれば良いのかが、分かりやすく理解できました。」「災害支援に行った経験があるため、実践と重なるところが多く、サポートされた中で活動していたことを振り返りました。」など、人道支援の最低基準を学ぶとともに、参加者の経験を振り返る場となりました。また、「医療者である自身を守るべき根拠があり、自身も守って良いこと



を学ぶことができ、有意義な講義でした。」「災害に遭った場合には、被災者も医療者も対等であるということが分かりました。」と、医療者も守られるべき存在であるという認識をもつことで、急時の活動に対する心構えをもつ機会となりました。医療者の自己犠牲の上に成り立つ災害医療ではなく、「全ての災害の影響を受けた人びとを守る」スフィアスタンダードに基づいた体制を平時から整えておく必要性について考える契機となる学びの多い講義となりました。

医療安全推進週間

～患者・家族の医療参加～

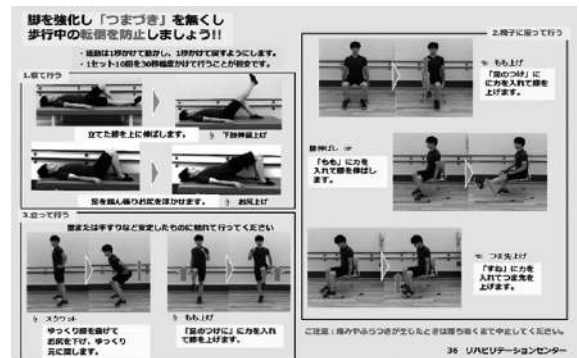
厚生労働省は、11月25日（いい医療に向かってGO）を含む1週間を「医療安全推進週間」と定めており、本院では、この推進週間の協賛事業として令和4年11月28日（月）から30日（水）の3日間にわたり、「コロナの中でも医療安全」をテーマに患者さんの医療参加を促進するイベントが実施されました。

イベントでは特設ブースを設け、ご来院の方への医療安全リーフレットの配布や、「～私の部署の安全宣言～」と題した院内44部署の医療安全に対する取り組み紹介のポスター展示が行われました。

医療安全リーフレットは、「安全な医療を受けて

いただくためにご協力をいただきたいこと」の10項目と、「『転倒転落防止』に役立つ家でできる運動」をまとめたもので、患者さん・ご家族にお渡ししながら医療参加を呼び掛けました。

また、患者さんに対し、受診や検査等の際にフルネームを名乗ったかどうかについての聞き取り調査をしたところ、87%の方しか名乗っておらず、「病気について聞きたくても忙しそうなおスタッフに声を掛けづらい。」などのご意見もいただきました。職員にとって声掛けの重要性を再認識する必要があることを示すものとなりました。



「安全な医療を受けていただくためにご協力をいただきたいこと」(左)
 「『転倒転落防止』に役立つ家でできる運動」(右) リーフレット

病院経営人材育成研修会開催

令和4年11月11日（金）午後4時から大学本館たちばなホールにおいて、医療経営学修士（MBA）資格を持つ内科学講座（肝胆膵内科）の角田圭雄准教授（特任）を講師に迎え、「英国流MBA的病院経営～医療者の働き方改革と戦略的病院ブランディング～」というテーマで病院経営人材育成研修会が開催されました。

この研修会は、医療法施行規則の改正により特定機能病院の開設者に求められることとなった「病院のマネジメントを担う人員の育成」を目的として、病院職員各職種の管理職を対象に平成30年から開催しており、今回で4回目となります。

角田准教授（特任）には、日々、身近なところで

起こりうる状況を例に用いながら、MBA的病院経営論から考える医療者の働き方改革や、医療者個人に求められるセルフブランディング（パーソナルブランディング）とそれを補助する病院の役割などについて大変分かりやすくお話しいただきました。

今回は75名の出席があり、受講後アンケートでは、「ブランディングには医療職の高い倫理観と誠実性が欠かせないということがよく理解できた。」「具体的行動や実践について、もっと詳しく学びたくなった。」などの意見がありました。これらの意見については、次回以降の研修会に取り入れるよう検討して参ります。

あいちMACT始動

令和4年7月から「あいちMACT（Monitor Alarm Control Team）が病院の試行事業として始動しました。

本院は高度急性期病院であり、生体情報モニターで状態観察している多くの重症患者がみえます。各病棟におけるモニターを適切に管理できないと、モニターアラームの「無駄鳴り」が多くなり、アラーム対応の遅れが医療安全上の問題になることもあり得ます。また、看護師の労働環境の観点より、多数のアラームに対応する看護師の動線の複雑化と疲弊にも繋がります。

あいちMACTは、適切なモニター管理の教育、テクニカルアラームの減少による患者安全と看護師の負担軽減のために立ち上がったチームです。これまでに、勉強会を3回（9月、10月、1月実施）、院内ラウンドを1回（10月実施）、電池切れゼロキャンペーン等、活発な活動をしています。

また、一般病棟に生体情報モニターの画面をいつでも手元（タブレット）で確認できる「ViTrac」を導入し、その活用方法の周知と評価を行っています。モニター管理でお困りのことがありましたら、いつでもチームに声を掛けてください。



院内ラウンドをする天野哲也チーム長（左から2番目）とチームメンバー

ナーシングフェスタ2022開催

令和4年11月19日（土）に「みんなで取り組む入退院支援～患者のベストな場所・タイミングを支援～」をテーマとして、ナーシングフェスタ2022が開催されました。

今年度もコロナ禍のため、Zoomによるライブ配信とオンデマンド配信による開催となりましたが、看護機能連携病院の看護師の方々にもご参加いただき、大変盛り上がりま

した。

フェスタ企画の一つである第45回看護研究発表会は、18演題の発表が行われました。また、特別講演では、意思決定支援と退院支援



演題発表を行う看護部の
貞丸加奈看護師



Zoomによるライブ配信の様子

について、基礎知識から実際の事例を通した振り返りまでを講演していただきました。実践に取り入れやすい内容で、分かりやすく大変学びの多い時間となりました。

看護部トピックス研修開催

「人を育てる！最強のチームを作る！～スターバックスの教え～」

令和4年11月25日（金）午後5時から大学本館たちばなホールにて令和4年度看護部トピックス研修が開催されました。看護部トピックス研修は、既定の現任教育研修とは別に、重点的に取り組む課題について特別講師を招き企画される研修です。

今回は、大学創立50周年記念事業であるスターバックスコヒー愛知医科大学店のOPENを記念して、スターバックスコヒージャパン組織人材開発部マネージャー・人事サービス部の元部長であり、現在トリプル・ウィン・パートナーズ合同会社のCEOである目黒勝道氏を講師にお迎えしました。

当日は、看護師110名を始め、他部署の責任者や他病院からの参加者があり、活気に溢れた研修となりました。自律した人材を育て、チームで成果を挙げるには、「笑顔」、「相手を認める」、「信じる」、「任せる」、「ポジティブにフィードバックする」など、たくさんのスタバエッセンスを得ることができました。



講演を行う目黒CEO



メディカルセンター令和4年度第1回防災訓練実施

令和4年11月17日（木）に愛知医科大学メディカルセンターにおいて、令和4年度第1回防災訓練が実施されました。昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため机上での訓練でしたが、今年度はセンター開院後初となる職員参加の実動訓練となりました。また、実施に当たっては看護部等現場の意見も取り入れ、一から準備を進めました。

今回の訓練では、災害想定を「震度5の地震発生（建物倒壊なし）後、火災発生」とし、訓練目的としては、「①災害対策本部の速やかな設置、②職員の災害への意識付け、③本部と現場のフロー確認、④各部署災害時対応の確認」の四点を掲げました。防災に関して各部署で調整するきっかけとなるよう、患者役や現場の詳細な動きは取って決まらず、「地震発生・本部設置・火災発生・通報・避難」といった大筋のシナリオのみ設定しました。

訓練当日は、災害対策委員長の勝野敬之先生から「今回は課題を見つけることも大きな目的であるため、意識をもって取り組んでほしい。」とあいさつがあり、災害対策本部長である羽生田正行病院長からの指示出しを皮切りに訓練がスタートしました。

各部署から選出された「消火班」、「避難誘導班」、「連絡通報班」の担当者によって、患者・職員及び施設等の状況が本部へ集約され、本部内での情報共有や指示出しの確認が行われました。また、水消火器を使用した初期消火訓練の実施、屋内消火栓の使用説明や岡崎市独自の防災無線の使用訓練が行われ、参加者からは災害時を想定した質問の声も挙がっていました。

訓練後、羽生田病院長から「このような実働訓練を通して、普段から災害への危機意識をもち、業務に取り組んでほしい。」との総評がありました。

今回の訓練に関し、メディカルセンター職員対象のアンケートでは135名からの回答があり、「もっと訓練回数を増やしてほしい。」、「現場で話すきっかけとなった。」、「参加職員を増やして実施してほしい。」など多数の意見があり、センター職員の防災意識の高さが伺えました。

令和4年度第2回の実施は、病棟に特化した訓練を予定しています。今後も現場の意見に耳を傾け、今回の訓練での課題点を検証し、一層実効性のある訓練の実施に努めていきます。



災害対策本部の様子



水消火器での消火訓練



連絡通報班からの情報集約



病棟の訓練風景

メディカルセンター検査室の移転整備及び南館エントランスホール等のリニューアル実施

愛知医科大学メディカルセンターでは、令和4年12月に検査室移転整備及び南館エントランスホール等のリニューアルが完了しました。

旧検査室は非常に手狭であったため、今回、南館1階エントランスホールの東側エリアに拡張移転整備が行われました。検査室整備では各部屋の充実のもとより、検体検査、生理検査、採血管準備装置など、より多くのシステム化を進めた結果、業務の効率化や画像報告書の充実と完全ペーパーレス化を実現することができました。また、検査受付の有人化

や採尿室と採血スペースの整備により、プライバシーやバリアフリーに配慮した患者さんに優しい検査室へ生まれ変わりました。

その他に、南館エントランスホールを「温かみと安らぎを感じる待合空間」にリニューアルするとともに、降雨時でも雨に濡れずに車の乗降ができるように、障がい者等用駐車場及び車寄せスペースに屋根を設置して、患者さんの利便性を向上させました。これらの整備によって患者さんや来院者からは、「大変きれいになった。」とのお声をいただいています。



拡張移転整備した
検査室（採血スペース）



リニューアルした
南館エントランスホール



車寄せスペースへの屋根設置

眼科クリニックMiRAI 目の病気に関する講演会開催

令和4年10月1日（土）、11月5日（土）、12月3日（土）の3回にわたり、愛知医科大学眼科クリニックMiRAI 2階特設会場において、目の病気に関する講演会が開催されました。

目の病気に関するテーマで、硝子体・緑内障・眼形成の各分野の専門の眼科医師が病気の原因や最新の検査・治療方法などを解説し、各回約20名の参加があり、質疑も活発に行われました。

眼科クリニックMiRAIでは、今後も地域の方々に向けて講演会を開催し、クリニックの知名度・認知度向上を図っていきます。



上から瓶井教授、三木クリニック長による講演の様子

| 日 時 | 講演テーマ | 講 師 |
|----------|---|----------------------------|
| 10月1日(土) | 気になる眼底の病気：加齢黄斑変性 ～飛蚊症，網膜剥離～ | 瓶井 資弘（眼科学講座・教授） |
| 11月5日(土) | 緑内障の診断と最新治療 | 三木 篤也（眼科クリニックMiRAI・クリニック長） |
| 12月3日(土) | まぶたと涙の病気の最新治療 ～眼瞼下垂，さかまつげ， 涙目は我慢しないで～ | 河野伸二郎（眼科・助教） |

眼形成・眼窩・涙道外科 柿崎 裕彦教授（特任）の「眼瞼下制筋前転法」が保険適用（保険収載）となりました



眼形成・眼窩・涙道外科の柿崎裕彦教授（特任）が開発した、新しい手術法である「眼瞼下制筋前転法」が、令和4年4月から診療報酬改定において新規収載され、保険適用となりました。

この手術法は、逆さまつげの一種である「下眼瞼内反症」の新しい手術法です。下眼瞼内反症は、下まぶたを下に引っ張る組織「筋膜」が加齢で緩み、まぶたが内側に巻くことで、まつげやまぶたが眼球に触れて充血したり、涙や目やにが出たりする病気です。

これまでの手術は、筋膜をたくし上げて緩みを改善する方法でしたが、患者さんの10%が術後に再発していました。そこで、柿崎教授（特任）は、下まぶたを解剖して原因を究明し、「筋膜は前後二層の構造で、後の層がまぶたを支えていること」を突き

止め、新しい術式である「眼瞼下制筋前転法」を考案しました。この術式により、再発率が2%という非常に低いレベルにまで改善され、水平方向への追加手術を加えることによって、全く再発のない術式へと発展しました。これは、新しく明らかにされた解剖学的知見に基づいて臨床応用された手術であり、まさにトランスレーショナル・リサーチの正道を歩んだ術式です。

また、この術式は国際的にも注目され、令和4年9月にフランスで開催された「ヨーロッパ眼形成外科学会」のKeynote Lectureで講演されました。

柿崎教授（特任）からは、「本術式が保険収載されるに当たっては、本学の岩城正佳名誉教授（眼科学）及び中野隆名誉教授（解剖学）を始めとした関係方々のご尽力がありました。厚く御礼申し上げます。一人でも多くの先生方が本術式を採用され、患者さんが益する日が来ることを願っております。」との感想がありました。

臨床感染症学講座 三鴨 廣繁教授 一般社団法人日本医真菌学会 学会賞受賞

臨床感染症学講座の三鴨廣繁教授が、令和4年10月1日（土）から2日（日）にかけて岐阜市の長良川国際会議場にて開催された第66回日本医真菌学会総会・学術集会で一般社団法人日本医真菌学会学会賞【写真】を受賞しました。

三鴨教授らが長年にわたり取り組んできた「侵襲性カンジダ症の病態，診断，治療に関する研究」が評価され，一般社団法人日本医真菌学会の最高栄誉となる学会賞が授与されるに至ったものです。

カンジダ症は，カンジダ血症，慢性播種性カンジダ症に代表される最も頻度の高い真菌感染症です。カンジダ血症に至っては，抗菌化学療法の進歩した現在でも，その死亡率は30～50%と予後は極めて不良です。三鴨教授らは，カンジダ血症を代表とする侵襲性カンジダ症患者に対して，より早期に臨床現場で認識され最適な治療が選択できることを目的として，カンジダ症の難治性要因となるカンジダ属のバイオフィルム形成に対する至適治療法の確立，カンジダ属の抗真菌薬耐性状況の把握，臨床的に精度の高い診断基準の確立，新規抗真菌薬の臨床試験のあり方に対する具体的な提案を目指し，基礎・臨床の両面から研究を行ってきました。三鴨教授らの研究は，日本医真菌学会が作成した侵襲性カンジダ



症の診断・治療ガイドライン2013，侵襲性カンジダ症に対するマネジメントのための臨床実践ガイドラインにも貢献した研究です。

受賞された三鴨教授からは、「この度，大変栄誉ある学会賞をいただき身に余る光栄に存じます。この賞の名を汚すことのないよう，今後も教室の皆さんと精進していきたいと考えております。なお，小職とともに研究を支えてくれた，本学臨床感染症学講座員を始め，感染症科，感染制御部，分子疫学・疾病制御学寄附講座のスタッフ，本学客員教授で現高知大学医学部臨床感染症学講座の山岸由佳教授，本学感染症科元准教授で現和歌山県立医科大学医学部臨床感染制御学講座の小泉祐介教授，学外共同研究者の先生方，大学院生の皆さんに感謝致します。」との感想がありました。



臨床感染症学講座 三嶋 廣繁教授 International Society of Antimicrobial Chemotherapy (ISAC) Meritorious Membership受賞

臨床感染症学講座の三嶋廣繁教授【写真】が、令和4年11月27日(日)から30日(水)にかけてオーストラリアのパーズで開催された第32回International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC) で International Society of Antimicrobial Chemotherapy (ISAC) Meritorious Membershipを受賞しました。

これは、三嶋教授が平成29年から令和4年まで国際学会であるInternational Society of Antimicrobial Chemotherapy (ISAC) Executive Committeeとして学会発展に尽力したばかりではなく、Antimicrobial Chemotherapyの領域で卓越した業績を有することから、第32回International Congress of Antimicrobial Chemotherapy (ICC) において、三嶋教授を含む世界の5名の研究者がISAC Meritorious Memberに推挙されたものです。

受賞された三嶋教授からは、「この度、大変栄誉あるMeritorious Membershipをいただき身に余る光栄

に存じます。この賞の名を汚すことのないよう、今後も教室の皆さんとAntimicrobial Chemotherapyの発展に貢献していきたいと考えております。なお、小職とともに研究

を支えてくれた、本学臨床感染症学講座員を始め、感染症科、感染制御部、分子疫学・疾病制御学寄附講座のスタッフ、本学客員教授で現高知大学医学部臨床感染症学講座の山岸由佳教授、本学感染症科元准教授で現和歌山県立医科大学医学部臨床感染制御学講座の小泉祐介教授、学外共同研究者の先生方、大学院生の皆さんに感謝致します。」との感想がありました。



看護連携 岡本悦子臨床教授ら 第26回日本看護管理学会学術集会 一般演題ポスター賞受賞

看護連携の岡本悦子臨床教授，基礎看護学の山中真教授，山本恵美子准教授，感染看護学の青山恵美准教授，看護部の井上里恵看護部長，川村和代副部长及びメディカルセンター看護部の池田幸代主任が，令和4年8月19日（金）及び20日（土）に福岡国際会議場でハイブリッド開催された，第26回日本看護管理学会学術集会において一般演題ポスター賞を受賞しました。

これは，第26回日本看護管理学会学術集会に応募した一般演題「看護連携型ユニフィケーションを基盤としたCOVID-19流行下における卒業前研修の効果について」の発表が，看護管理学の発展に大きく寄与するものとして高く評価されたものです。

受賞者を代表して岡本臨床教授から，「この度は，名誉ある賞をいただき，大変光栄に存じます。評価いただいた内容は，共同研究者のご指導，ご協力のお陰と感謝しております。今後も看護学部と看護部



左上，青山准教授 右上，山本准教授
左下，岡本臨床教授 右下，井上看護部長

が協働し，看護基礎教育と臨床双方の人材育成を効果的に行う体制整備に取り組み，一層精進していく所存でございます。今後ともご指導よろしくお願ひ致します。」との感想がありました。

看護部 分造健太主任 第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 第5回医療の質特別賞(酸素療法・呼吸管理領域) 受賞

看護部の分造健太主任【写真】が，令和4年11月11日（金）及び12日（土）に幕張メッセ国際会議場・国際展示場で開催された，第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会において，「第5回医療の質特別賞(酸素療法・呼吸管理領域)」を受賞しました。

これは，同学会の学術総会に応募した一般演題「看護師特定行為研修修了者がRST(呼吸ケアチーム)として活動した1年の成果」が，「患者のQOL」及び「医療の質」向上に貢献するものであり，かつ現在あるいは今後提案される診療報酬の改定や提案に関してそのエビデンス作成のための重要な情報を含むものとして優秀であると高く評価されたものです。

受賞された分造主任からは，「医師，診療看護師，臨床工学技士，理学療法士，薬剤師などチームで活



動した成果をこのように表彰していただき，日々の実践が認められたようで光栄に思います。今後も，『医療の質特別賞』の名に相応しい活動を継続して参ります。」との感想がありました。

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



小西 倫之

学位授与番号 甲第638号

学位授与年月日 令和5年1月19日

論文題目：「Efficacy of a Combination

Therapy for Difficulties Waking Up in

Non-School-Attending Students (不登校生の起床困難
に対する併用療法の有効性)」

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員として来学された方をご紹介致します。(敬称略)



モニルル イスラム

Md. Monirul Islam

国 籍：バングラデシュ

現 職：チッタゴン大学生化学・

分子生物学准教授

受入講座：小児科学講座

研究期間：R4.12.1 ~ R5.11.30 (12か月)

研究課題：重症患者病態におけるneutrophil
extracellular trapsの役割



ジョ ギ

徐 巍

国 籍：中国

現 職：福建医科大学医師

受入講座：眼科学講座

研究期間：R5.1.6 ~ R5.12.31 (12か月)

研究課題：APCによる網膜保護作用



ヘル クストノ

Heru Kustono

国 籍：インドネシア

現 職：アイルランガ大学医学部

ソエトモ総合病院脳神経

外科医

受入講座：脳神経外科学講座

研究期間：R4.12.2 ~ R5.3.1 (3か月)

研究課題：脳腫瘍に対する神経内視鏡手術の学習

研究助成等採択者

◇一般財団法人土谷記念医学振興基金

<透析領域>助成金

・氏名 伊藤恭彦 (内科学講座(腎臓・リウマチ膠原病内科)・特命教授)
 研究題目 腹膜透析における腹膜機能障害, 線維化に対するトランスグルタミナーゼをターゲットとした新規治療戦略の検討
 助成金額 2,400,000円

◇Intuitive Grant Programs (助成プログラム)

・氏名 篠原健太郎 (消化器外科・助教)
 研究題目 Proposal of shadowing technique as a novel robotic surgery training method using the dual-console system. (デュアルコンソールシステムを用いたシャドーイングによる新しいロボット手術訓練法の検証)
 助成金額 20,000米ドル

◇一般社団法人せりか基金

「せりか基金」賞

・氏名 藤内玄規 (ALS治療研究開発部門・助教)
 研究題目 タンパク質品質管理機構を標的としたALSの病態解明と治療法開発
 助成金額 3,000,000円

◇一般社団法人J A 共済総合研究所

J A 共済交通事故医療研究助成

・氏名 寺島嗣明 (救命救急科・講師)
 研究題目 重症外傷患者における早期電気刺激療法の効果と栄養代謝動向の解明
 助成金額 1,000,000円

令和4年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構増額に伴う委託研究開発変更契約の締結

令和4年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題について、委託研究開発費の増額に伴い、次のとおり変更契約を締結しました。

(金額単位：円)

| 研究事業名 | 研究開発担当者 | 委託研究開発費 | 増額後委託研究開発費(増加額) | 研究開発課題名 |
|-------------------------|-------------------------------|-------------|-----------------------------|--|
| 難治性疾患実用化研究事業 | 祖父江元長 祖学 | 128,700,000 | 149,120,400 (20,420,400) | 筋萎縮性側索硬化症克服のためのDeep-Phenotypingの統合解析を通じた治療開発研究 |
| 脳とこころの研究推進プログラム | 祖父江元長 祖学 | 91,000,000 | 97,500,000 (6,500,000) | 孤発性筋萎縮性側索硬化症の双方向トランスレーショナル研究による病態介入標的の同定と核酸医薬の開発研究 |
| 医療機器等研究成果展開事業(チャレンジタイプ) | 井上匡央 医学部 内科学(肝胆膵内科), 講師 | 13,000,000 | 45,500,000 (32,500,000) | 胆管バルーンアブレーションシステムの開発 |

- ・令和4年10月までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載。
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

総合医学は日本を救う

総合診療医学講座・教授 前川 正人

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

高度な専門性の高い医療や最先端医療の提供が大学病院の本来の役割であると言われてきました。それらは総合診療とは対極に位置するものであり、大学及び大学病院における総合診療の在り方については様々な意見があります。しかしながら、時代は少子高齢化や医療の地域格差、医療経済の逼迫などを背景として総合診療医の必要性や基本的臨床能力を身につけた医師の育成が重要視されてきました。平成16年から新しい初期研修制度が開始され、大学病院においてもプライマリケア研修が行える体制を整える必要がありました。また、大学病院での診療に関しても、高度な専門医療や先進医療を円滑に提供するためにも、非紹介の患者や領域不明の患者を診療する体制を築くことも求められてきました。

我々の医学教育に関する考え方は、4学年次後学期から始まるクリニカルクラークシップから国家試験を経て、2年間の初期研修が終了するまでを総合医学の教育期間と位置付けています。座学では、診断学、症候学の講義を行い、クリニカルクラークシップでは、診断のプロセスや臨床推論を実践するとともに医療面接、身体診察など基本的臨床能力の修得に努めています。卒後教育においては、すべての研修医に対して1年目・2年目ともにプライマリケアセンターへのローテートを義務付け、様々な領域の患者の外来診療研修を指導しています。我々の目標は、医学教育を通じて総合診療医やジェネラルマインドを持った臨床医を育成していくことです。これらの臨床医の育成は急務であり、今後の日本の医療や医療経済を救うと信じています。

【世界に発信する医学研究】

総合診療医学講座のスタッフは1名の総合診療専門医と1名の後期研修医を除き、すべてがサブスペシャリティを有しています。現在のところ、スタッフ各々のサブスペシャリティを活かし、循環器病学、消化器病学、腎臓病学に関する臨床研究を中心に行っています。総合診療に関わる研究としては、高齢者の重症感染症に関する研究やAgingと自律神経機能に関する研究などを行っています。また、「大学病院における総合診療の在り方と役割」を講座としての共通の研究課題として取り組んでいます。症例を通してその在り方と役割について日本プライマリケア連合学会、日本内科学会、日本病院総合診療医学会などでの学会発表も積極的に行い、研修医や学生にも発表の機会を与えています。

今後は、膨大なデータが蓄積された総合外来受診患者の分析や医学教育に関連した総合医学研究にも力を注ぎ、本学及び本院における総合診療の役割について、更に発信していきたいと考えています。

【部署からの一言】

大学で総合診療を実践しようとする若手医師は極めて少なく、本講座においても人員不足が最大の問題です。本学の総合診療医学講座は、臨床においては、通常の外来診療に加え、プライマリケアセンターでの診療、研修医指導、単独診療科での入院診療も行っており、他学にない特徴をもった講座です。医学生や若手医師の方で、少しでも興味を持っていただいた方は、是非ご一報ください。

また、愛知医科大学病院総合診療専門医プログラムへの登録もお待ちしています。



スタッフ集合写真



カンファレンスの様子

運動療法の必要性和その目的を今こそ考え直す

リハビリテーション医学講座・教授 尾川 貴洋

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

「高齢で重症な疾患を患った患者さんだから無理せず安静にする」が必ずしも正しいか？「歩くことができない患者さんに、歩くためだけの歩行訓練を提供する」が必ずしも正しいか？などの問いについて、深く考えることがあります。

運動療法の全身への影響を理解することは、重要な医学教育の一つと考えます。運動で筋力が付くということは一般に知られていますが、それ以外にも我々は注目しています。運動は、脳・神経、心臓、肺、運動器、免疫、生活習慣病などに効果があり、更に近年では、腎機能障害や癌などを有する患者さんにも積極的に推奨されるようになりました。つまり、全身への良い効果が期待できるということです。

今日では複数の疾病を持つ患者さんが増加しています。臓器別医療の枠に捉われず、「全身を診る：Whole Body」の観点からの診療が、現在のリハビリテーション医学・医療には必要と言えます。

運動から得られるメリットが多くあるということは、すなわち疾患や病態を全身から改善が見込める手段とも言えるため、集中治療室から始まる積極的リハビリテーション治療や予防医学にも繋がります。したがって、安静は身体を衰えさせる毒、運動は健康への万能薬とも言えるかもしれません。高齢で重症疾患を併発していても十分運動療法が可能なケースが多々あり、歩行訓練により脳や心臓、肺、その他に運動療法の効果が期待できることもあります。このように、全身を診ることは、体の臓器別リハビリテーション治療の考え方から脱却することであり、新しい考え方へ転換していくこと、すなわち医学教育のグローバルスタンダードを目指すことになると思います。

【世界に発信する医学研究】

本講座では、リハビリテーション診療において、リハビリテーション診断・治療・支援を行い、生活機能と障害の診断・評価技術、ボツリヌス療法、義

肢装具療法などによる早期からの機能回復等の臨床研究を行っています。また、多職種連携による総合リハビリテーションネットワークの研究と地域展開を目指して、学内外の専門職団体、医療・介護・福祉施設との協力を積極的に行っています。更に、社会貢献の一つとして、たとえ障害を持つことになったとしても、運動が健康維持に必要なとの考えから障がい者スポーツへも関わっています。

研究は、複数の分野にわたり行っています。具体的には、運動療法の臨床的・基礎的研究として、運動療法とサイトカイン、運動療法と筋肉量・ADL、運動療法と免疫、急性期の運動療法、運動器疾患と運動療法、脳血管障害と運動療法などを行っています。更に、高次脳機能障害や摂食嚥下機能障害に関する研究、物理療法の基礎的研究としては、温熱療法意義、物理療法における全身への影響、サイトカインへの影響なども行っています。これらの研究は、リハビリテーション治療や運動療法が、どのように健康に関与するのか、あるいはどのようなリハビリテーション治療が有効かなどの問いに答えるものであり、今後の臨床にも非常に有効と思われます。

【部署からの一言】

リハビリテーション医学講座は、更に変化し続ける講座です。リハビリテーション治療は、手術や薬物療法と同じように、治療の一つと考えています。少し前のリハビリテーション治療ではなく、新しいリハビリテーション治療が、患者さんのためになるとの考え方から、診療・教育・研究を行っています。リハビリテーション治療を実施するか否か、更に実施内容でも状態は大きく異なるため、患者さんの人生にも影響しうる治療方法の一つです。運動療法の効果は数多く、その必要性を十分に理解することは存外困難なことかもしれません。しかし、その目的を今こそ考え直し、患者さんにその利益をもたらす医療を提供できるよう、リハビリテーション医学・医療を発展させていきたいと思えます。



リハスタッフ集合写真



カンファレンスの様子

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

先制・総合医療包括センター

本センターは、本邦82医科大学・医学部内で唯一無二の戦略的未病予防の自費外来であり、特に、がんの超早期発癌リスクと長寿遺伝子活性度（＝現在の健康度）を可視化できるセンターです。平成27年4月に創設し、稼働は同年5月から毎週木曜日に実施しています。主体的外来は、本院中央棟4階48番外来の第1診察室で診療を行い、高額な機器は不要で、ほんの2.5ccの採血のみで、種々のがんリスク（男性8臓器、女性11臓器）と長寿遺伝子活性度を通知表のように5段階評価で「見える化」しています。

インバウンド（中国、東南アジア、その他の海外）からの問合せも殺到しておりますが、現在、コロナ禍のため一時延期を余儀なくされています。コロナ収束の際には、令和元年12月頃までを超えるインバウンドからの受検者集客を飛躍的に進展させることが最大の課題です。その一方で、本外来のリピーターは着実に増加傾向にあり、自身の健康状態を維持し、人生100年時代を駆け巡りたいとの強い意識付けの反映であると



外来診療及び解析を行う福澤嘉孝教授

考えられます。更なる展望として、今後、急速に増加すると推測される認知症の、mRNAを活用した超早期リスク診断・診療による更なる社会・医療貢献を模索しています。

最近では、がん末期の所謂「がん難民」の方々からセカンドオピニオンの依頼も増加しています。これは、本センターが当に個別化医療に貢献し、がん医療の最前線外来であるとも言えるのです。

栄養治療支援センター

栄養治療支援センターは、栄養サポートチーム（NST）のマネジメントを通じ、栄養サポートを行っています。NST活動が日本の病院で必須のものとなり、20年を迎えようとしています。現在では、入院時のスクリーニングにより同定された栄養リスク患者に詳細なアセスメントを行い、適切な栄養サポートを行うという栄養ケアフローが、入院基本料を始めとする日本の診療報酬体系の中で求められるようになりました。

本院NSTは、世界有数の栄養ケアフロー体制を構築しています。NST回診数、あるいは栄養サポート時に算定できる「栄養サポートチーム加算」の算定は、日本一の数になっています。また、質の高いNST勉強会を毎月開催し、コロナ禍においてもハイブリッド形式で継続してきました。これらの活動から集積された豊富なデータを基に学術活動を積極的に行い、英文論文



栄養治療支援センター、NST金曜回診メンバー

を多く発表しています。

現在NST活動は、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、糖尿病内科、総合診療科、歯科口腔外科に協力いただき、専従の管理栄養士、専任の看護師や薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士など各部門から派遣いただいた多職種チームにより活動しています。栄養治療支援センターは、NST活動を更に発展させ、そのアウトカムや栄養ケアの啓発を世界に向け発信していきます。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

給与規程の一部改正等

令和4年人事院勧告により国家公務員の俸給表が改められたことに伴い、本学の本給表等を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和4年12月12日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学給与規程
- ・助教（専修医）の給与等について（理事長裁定）

「メディカルセンター事務部事務分掌について」の制定

令和5年1月11日付けで「メディカルセンター事務部事務分掌について」(法人本部長・事務局長裁定)が制定され、メディカルセンター事務部の組織及び所掌事務が整備されました。

「実務能力向上を目的とした自己啓発支援制度について」の一部改正

令和5年2月1日付けで「実務能力向上を目的とした自己啓発支援制度について」(法人本部長裁定)の一部が改正され、支援内容の上限等が整備されました。

研究インテグリティの確保に関する規程の制定

愛知医科大学研究インテグリティの確保に関する規程が制定され、本学における研究の健全性・公正性の自律的な確保に関し必要な事項が整備されました。

施行日は令和4年12月1日

組換えDNA実験安全予防規程細則の一部改正

愛知医科大学組換えDNA実験安全予防規程細則の一部が改正され、提出書類の様式が整備されました。

施行日は令和5年4月1日

臨床倫理コンサルテーションチーム要綱の一部改正

愛知医科大学病院臨床倫理コンサルテーションチーム要綱の一部が改正され、臨床倫理の検討を促すために、依頼時の様式等が整備されました。

施行日は令和5年1月1日

メディカルセンター規程の一部改正

愛知医科大学メディカルセンター規程の一部が改正され、診療科として新たに脊椎脊髄外科が設置されました。

施行日は令和4年11月1日